

## XBRL Instance Guideline

# 報告書インスタンス 作成ガイドライン (次世代EDINET案)

平成 24 年 6 月 25 日  
金融庁 総務企画局 企業開示課



## はじめに

『報告書インスタンス作成ガイドライン』（以下「本書」という。）は、金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム（以下「EDINET」という。）に、開示書類をインライン XBRL(eXtensible Business Reporting Language)形式で提出する際に必要となる報告書インスタンスを作成するためのガイドライン（指針）となります。

報告書インスタンスは、原則として、本書に従って作成してください。

なお、「<http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/>」で始まる各種 URI は、仮の URI であり、今後変更される予定です。

### ➔ 前提となる文書

報告書インスタンスは、EDINET において正しく受理、審査又は閲覧されるために、XBRL の仕様や指針に従って作成します。また、報告書インスタンスが前提とするタクソノミは提出者別タクソノミであり、提出者別タクソノミは金融庁が定めるガイドラインに従って作成します。本書が前提とする XBRL の仕様や指針は、次の図表のとおりです。ただし、本書、XBRL 仕様及び指針の間に不整合がある場合は、本書を優先してください。




No	文書名
1	提出者別タクソノミ作成ガイドライン
2	XBRL2.1 Specification
3	FRIS (Financial Reporting Instance Standards) 1.0
4	XBRL Dimensions 1.0
5	Inline XBRL 1.0
6	GFM (Global Filing Manual) Version: 2011-04-19
7	XHTML 1.1
8	CSS 2.1

### ➔ 本書の適用範囲

本書は、提出者別タクソノミを利用して報告書インスタンスを作成する際に適用されます。

### ➔ 本書の表記について

本書に記載されている記号には、次の図表のような意味があります。

表示	意味
 <b>注意</b>	設定時に注意が必要な事柄を記載しています。
 <b>ポイント</b>	設定時に覚えておくと便利な事柄を記載しています。
 <b>参照</b>	参照先ページがある場合に記載しています。

➔ 略称

本書に記載されている略称は、『EDINET タクソミ用語集』を参照してください。

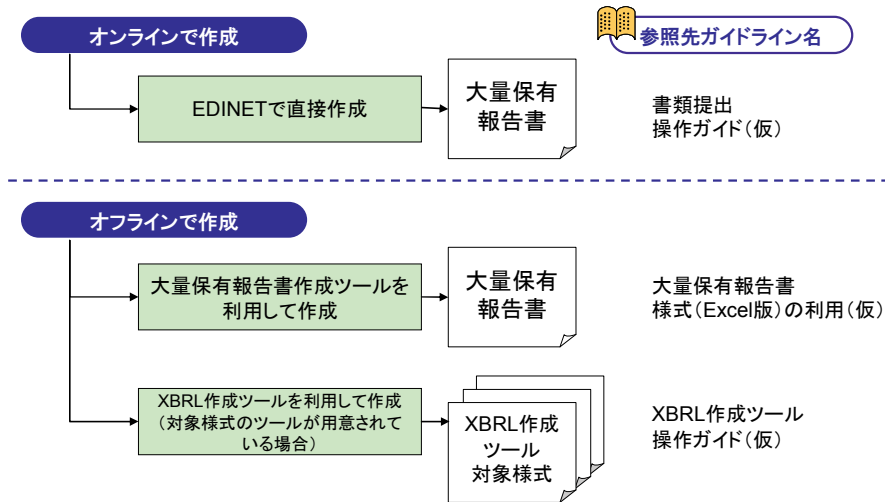
➔ 参考書類について

本書の主な参考書類は、次の図表のとおりです。

資料名	概要
タクソミ要素リスト	EDINET タクソミに定義された要素一覧です(ただし、財務諸表本表要素は除く。)
勘定科目リスト	財務諸表本表タクソミに定義された勘定科目の要素一覧です。
勘定科目の取扱いに関するガイドライン	勘定科目の取扱いについてのガイドラインです。
EDINET タクソミ用語集	EDINET の各種ガイドライン、資料等で使用される略称等について説明した資料です。
バリデーションガイドライン	EDINET の提出者機能のバリデーションチェック項目を定義した資料です。
タクソミ分割単位	『EDINET タクソミの設定規約書 別紙 1 タクソミ分割単位』 EDINET タクソミの分割単位を表した資料です。
タクソミ構成	『提出者別タクソミ作成ガイドライン 添付 1 タクソミ構成』 EDINET タクソミの物理ファイル一覧です。
パターン別関係リンクベースファイル一覧	『提出者別タクソミ作成ガイドライン 添付 2 パターン別関係リンクベースファイル一覧』 パターン別関係リンクベースファイルの一覧です。
拡張リンクロール一覧	『提出者別タクソミ作成ガイドライン 添付 3 拡張リンクロール一覧』 EDINET タクソミに定義された拡張リンクロールの一覧です。
各種命名規約の略号、連番及び追番一覧	『提出者別タクソミ作成ガイドライン 添付 4 各種命名規約の略号、連番及び追番一覧』 本書で使用している命名規約に関する略号、連番及び追番を説明した資料です。
様式ごとの DEI の設定値対応一覧	『提出者別タクソミ作成ガイドライン 添付 5 様式ごとの DEI の設定値対応一覧』 DEI と様式の対応表です。

## ➔ EDINET の XBRL 作成ツール等を利用する場合

EDINET では大量保有報告書、公開買付届出書等の一部の様式について、XBRL データ作成のために、オンラインの XBRL 作成機能及びオフラインの XBRL 作成ツール（以下「XBRL 作成ツール等」という。）を提供しています。XBRL 作成ツール等を用いる場合は、本書の詳細な理解がなくても本書に準拠した XBRL データを自動的に作成することができます。XBRL 作成ツール等の対象様式及び参照すべきガイドラインは、次のとおりです（XBRL 作成ツール等及びこれらのためのガイドラインは、平成 24 年 6 月時点では公開されていません。）。



## ◎ポイント XBRL 作成ツール等

次の書類及び様式は、XBRL 作成ツール等を利用し提出者別タクソノミ等を作成できます。

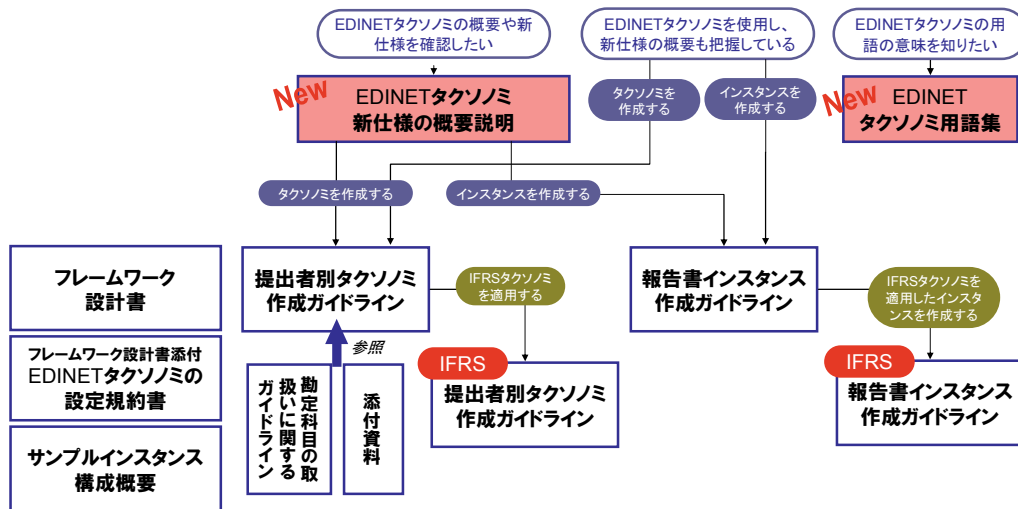
書類及び様式		
臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令	第五号の三様式
自己株券買付状況報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令	第十七号様式
臨時報告書	特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令	様式なし
公開買付届出書	発行者以外の者による株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令	第二号様式
公開買付撤回届出書		第五号様式
公開買付報告書		第六号様式
対質問回答報告書		第八号様式
内部統制報告書	財務計算に関する書類その他の情報の適正性を確保するための体制に関する内閣府令	第一号様式

## ◎ポイント サンプルインスタンスの利用

EDINET では、一部の主要様式のサンプルインスタンスを公開しています。報告書インスタンスを作成する際の参考として、提出しようとする報告書の様式のサンプル又は類似様式のサンプルを御活用ください。

## → 各種ガイドラインについて

EDINET で提供される XBRL の関連資料の体系は、次の図表のとおりです。



- ◆Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- ◆Microsoft、Excel、Internet Explorer、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標又は商標です。
- ◆その他、記載されている会社名及び製品名は、各社の登録商標又は商標です。
- ◆本文中では、TM や®は省略しています。
- ◆本文及び添付のデータファイルで題材として使用している個人名、団体名、商品名、ロゴ、連絡先、メールアドレス、場所、出来事等は、全て架空のもので、実在するものとは一切関係ありません。
- ◆本書に掲載されている内容は、2012年6月現在のもので、予告なく変更される可能性があります。
- ◆本書は、構成、文章、プログラム、画像、データ等の全てにおいて、著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、いかなる方法においても複製、複製等、著作権法上で規定された権利を侵害する行為をすることは禁じられています。

# Contents

<b>1. 報告書インスタンスの概要</b>	<b>1</b>
1-1 提出書類の全体像	2
1-1-1 提出者別タクソノミとは	2
1-1-2 報告書インスタンスとは	2
1-2 報告書インスタンスの作成単位	3
1-3 XBRL 対象様式	4
1-4 XBRL ファイルの作成について	5
1-5 マニフェストファイル	6
<b>2. 報告書インスタンスの作成プロセス</b>	<b>7</b>
2-1 報告書インスタンス作成全体の流れ	8
<b>3. 報告書インスタンス作成前の準備</b>	<b>11</b>
3-1 報告書インスタンス作成前の準備	12
<b>4. 報告書インスタンスのファイル仕様</b>	<b>13</b>
4-1 報告書インスタンスのファイル構成	14
4-1-1 ファイル構成例(1)	15
4-1-2 ファイル構成例(2)	16
4-2 報告書インスタンスのファイル名	17
4-2-1 表紙ファイル	17
4-2-2 本文ファイル	18
4-2-3 監査報告書ファイル	21
4-2-4 XBRL インスタンスファイル	22
4-3 利用可能な文字コードと文字	23
4-3-1 実体参照の入力	23
4-4 英語表記を入力する項目	24

<b>5. 報告書インスタンスの作成</b>	<b>25</b>
5-1 XHTML 要素について	26
5-2 名前空間プレフィックスと名前空間 URI	27
5-3 タクソノミの参照	29
5-4 コンテキストの定義	30
5-4-1 コンテキストの設定項目	30
5-4-2 コンテキスト ID の命名規約	31
5-4-3 エンティティ要素の設定	34
5-4-4 コンテキストの期間時点(period)要素の設定方法	34
5-4-4-1 期首日開始時点のコンテキストの作成	35
5-4-4-2 決算期を変更した場合の設定	35
5-4-5 シナリオ要素の設定	36
5-4-5-1 連結又は個別を表すシナリオ要素の設定	37
5-4-6 コンテキストの設定例	37
5-5 ユニットの定義	48
5-5-1 ユニットの設定	48
5-5-2 参照するユニットの設定	50
5-6 インライン XBRL ファイルの作成	50
5-6-1 インライン XBRL ファイルの規定及び禁止事項	53
5-6-2 数値を表現する要素	54
5-6-2-1 金額の入力及び設定	55
5-6-2-2 キャッシュ・フロー計算書の勘定科目の設定方法	56
5-6-2-3 値を設定しない場合	56
5-6-2-4 「△0(マイナスゼロ)」の設定	56
5-6-2-5 比率の入力	57
5-6-3 数値以外の値を表現する要素	58
5-6-3-1 日付の入力	59
5-6-3-2 テキストブロック	59



5-6-3-3 文字列に XHTML タグを含める場合の設定	61
5-6-3-4 該当なしタグ	62
5-6-4 Transformation Rule について	63
5-6-5 注記番号(フットノートリンク)の設定	64
5-6-5-1 フットノートリンクの定義と参照	65
5-6-6 DEI の記載	67
5-6-6-1 DEI 等の非表示情報の設定	68
5-6-6-2 シリーズファンド等の場合	70
5-6-6-3 大量保有報告書の DEI の設定	71
5-6-7 スキーマ参照とリンクベース参照の定義	71
5-6-8 ロールタイプ参照、アークロールタイプ参照、コンテキスト、単位の定義	72
<b>6. マニフェストファイルの作成</b>	<b>75</b>
6-1 マニフェストファイルの作成	76
6-2 マニフェストファイルの設定	77
6-2-1 ファイル名	77
6-2-2 使用する文字コード	77
6-2-3 使用する要素と構成	77
6-2-3-1 縦覧用提出書類本文のマニフェストファイルの構成例	78
6-2-3-2 監査報告書のマニフェストファイルの構成例	79
6-2-3-3 マニフェストファイルに記載する内容	80
6-2-3-4 マニフェストファイルで使用する要素	81
<b>7. 報告書インスタンスを作成する際の注意事項</b>	<b>83</b>
7-1 表示とラベルの整合性	84
7-2 シリーズファンドのインスタンス	85
7-3 訂正報告時の提出ファイル	86
7-4 インライン XBRL の記載に関する注意事項	87
7-5 株主資本等変動計算書等	88

7-6 検証に関する注意事項	89
7-7 外国会社の円貨併記の取扱い	90
7-8 詳細化範囲のタグ付け指針	91
7-8-1 表紙	91
7-8-2 主要な経営指標等の推移	92
7-8-3 大株主の状況	93
7-8-4 事業等のリスク	93
7-8-5 経理の状況	93
7-8-6 財務諸表	94
7-8-7 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	94
7-8-8 重要な会計方針	94
7-8-9 貸借対照表関係	95
7-8-10 損益計算書関係	96
7-8-11 包括利益計算書関係、株主資本等変動計算書関係及びキャッシュ・フロー計算書関係	97
7-8-12 セグメント情報等	98
7-8-13 大量保有報告府令	100
7-8-14 公開買付府令(自社株又は他社株)	100
7-8-15 特定有価証券開示府令	100
7-8-16 ファンドの委託会社の間接財務諸表本表	100
7-8-17 有価証券届出書における次の事業年度の四半期又は中間財務諸表の開示	101
7-8-18 目次のみ記載される場合	101
7-8-19 様式により表が記載されるが、該当なしの場合	101

# 1

## 報告書インスタンスの 概要

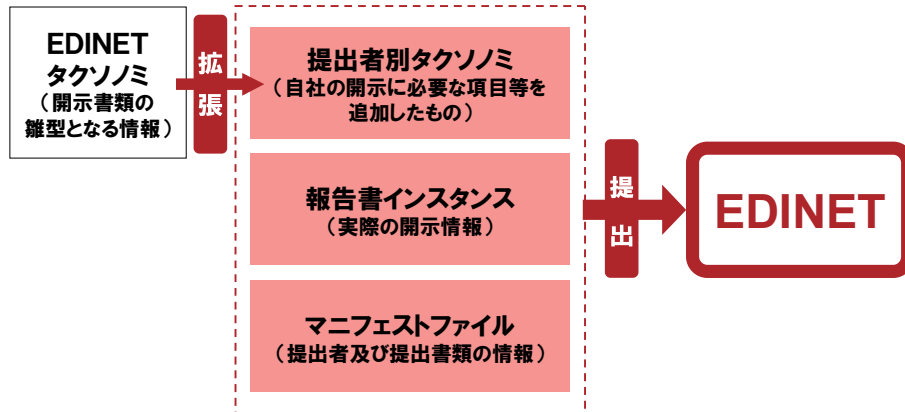
● ..... ●  
本章では、報告書インスタンスの概要について説明します。

## 1-1 提出書類の全体像

有価証券報告書等を提出する企業等（以下「開示書類等提出者」という。）が EDINET を利用して同報告書等をインライン XBRL 形式により提出する場合、XBRL のタクソノミ、インスタンス（以下「報告書インスタンス」という。）及びマニフェストファイルが必要となります（[参照](#)）「[図表 1-1-1 提出する書類\(XBRL のみ\)のイメージ](#)」)。マニフェストファイルの概要については「1-5 マニフェストファイル」を参照してください。

なお、報告書インスタンスは、画像ファイル等を併せて提出する場合があります。

図表 1-1-1 提出する書類(XBRL のみ)のイメージ



### 1-1-1 提出者別タクソノミとは

EDINET で扱う XBRL のタクソノミは、金融庁が提供する「EDINET タクソノミ」と、EDINET タクソノミをベースタクソノミとして開示書類等提出者が拡張する「提出者別タクソノミ」とがあります。提出者別タクソノミは、これから報告しようとする内容に必要な概念や項目について、EDINET タクソノミの利用及び EDINET タクソノミに存在しない独自の概念や項目の拡張を行い、各報告内容の項目間の関係を正しく反映したファイルです。EDINET タクソノミを新たに構成して利用し、加えて開示書類等提出者独自の項目を拡張します。提出者別タクソノミは必ず作成します（EDINET タクソノミ及び提出者別タクソノミについての詳細は、『[提出者別タクソノミ作成ガイドライン](#)』を参照してください。）。

### 1-1-2 報告書インスタンスとは

報告書インスタンスは、報告書内容（これから報告しようとする報告内容そのもの）が記載されたファイルです。項目の値やコンテキスト、通貨単位等を設定します。また、タクソノミの定義そのものは含まず、タクソノミへの参照を定義します。

## 1-2 報告書インスタンスの作成単位

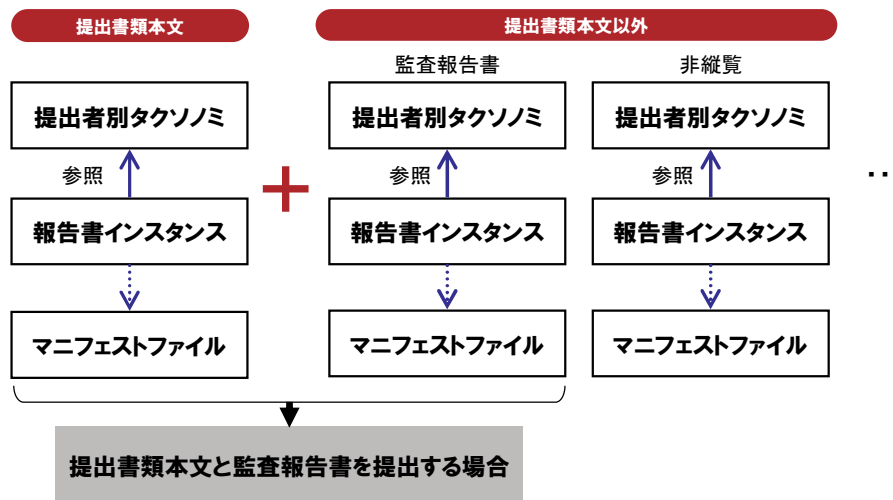
報告書インスタンスの作成単位は、有価証券報告書、四半期報告書、半期報告書等の報告書の単位で一つです。

提出者別タクソノミの作成単位も報告書ごとに一つであり、一つの報告書インスタンスは一つの提出者別タクソノミを参照します。

また、監査報告書も併せて提出する場合は、監査報告書1通につき一つの提出者別タクソノミと一つの報告書インスタンスとが必要です。さらに、非縦覧の内容を含んだ本文内容を作成する場合は、同様に非縦覧本文用のファイルに一つの提出者別タクソノミと一つの報告書インスタンスとが必要です。このように、提出者別タクソノミと報告書インスタンスは、提出する書類に応じて、そのセット数が増えることになります。

 **参照** 「図表 1-2-1 提出書類のイメージ(1)」

図表 1-2-1 提出書類のイメージ(1)

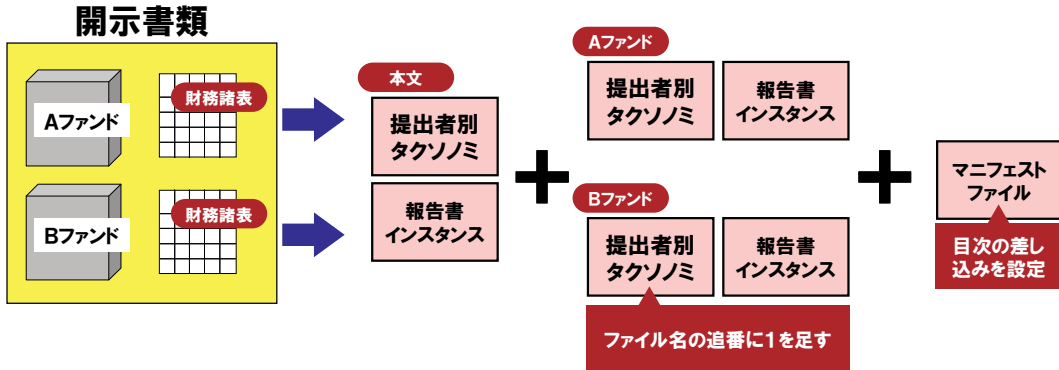


本書では、報告書インスタンスが schemaRef 要素を用いて提出者別タクソノミを読み込むことを、「参照する」といいます。

なお、シリーズファンドのように一つの開示書類で、複数の財務諸表を XBRL 形式で提出する必要があるファンドや、IFRS タクソノミを利用する場合は、複数の報告書インスタンスを作成します。

📖参照 「図表 1-2-2 提出書類のイメージ(2)」

図表 1-2-2 提出書類のイメージ(2)

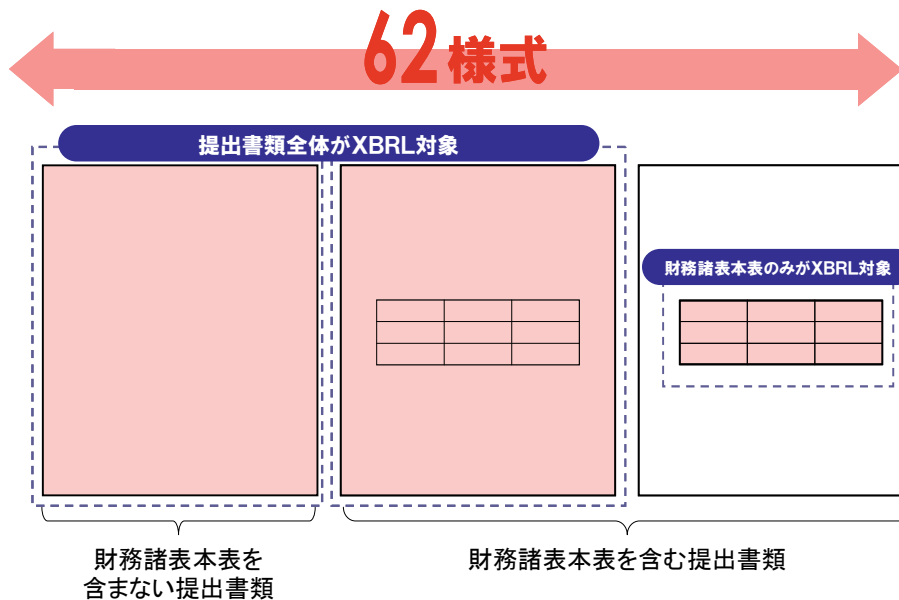


この場合、報告書インスタンスが複数存在することをマニフェストファイルに記載しなければなりません。マニフェストファイルの詳細は、「6章 マニフェストファイルの作成」を参照してください。

## 1-3 XBRL 対象様式

XBRL の対象とする様式は、62 様式で、次の「図表 1-3-1 XBRL 対象範囲のパターン」のように、提出書類全体を XBRL でタグ付けする場合と、財務諸表等本表のみをタグ付けする場合とがあります。

図表 1-3-1 XBRL 対象範囲のパターン



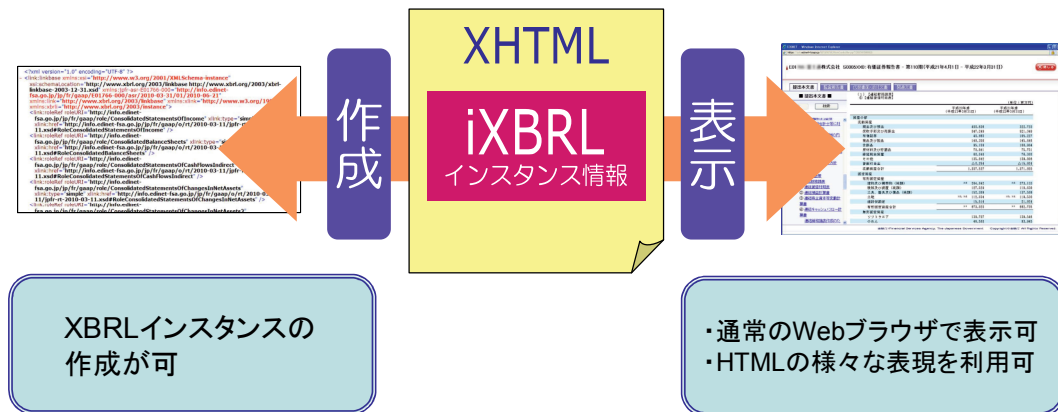
XBRL の対象となる書類と関連する法規等は、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。また、監査報告書全体も XBRL の対象となります。

## 1-4 XBRL ファイルの作成について

報告書インスタンスは、「インライン XBRL (InlineXBRL 又は iXBRL)」という形式で作成します。インライン XBRL は、XBRL 形式のインスタンス (以下「XBRL インスタンス」という。) 中で表現する要素を、XHTML ファイルに直接埋め込むことができます。この仕様により作成されるファイルを「インライン XBRL ファイル」といいます。

インライン XBRL は、XHTML のもつ様々な表現力を使い、ブラウザで表示できる一方で、XBRL インスタンス中で表現する要素が XHTML ファイルに埋め込まれているため、XBRL インスタンスへの変換も可能で、XBRL データを利用した分析を行う場合に容易に利用や加工が行えるようになっています。

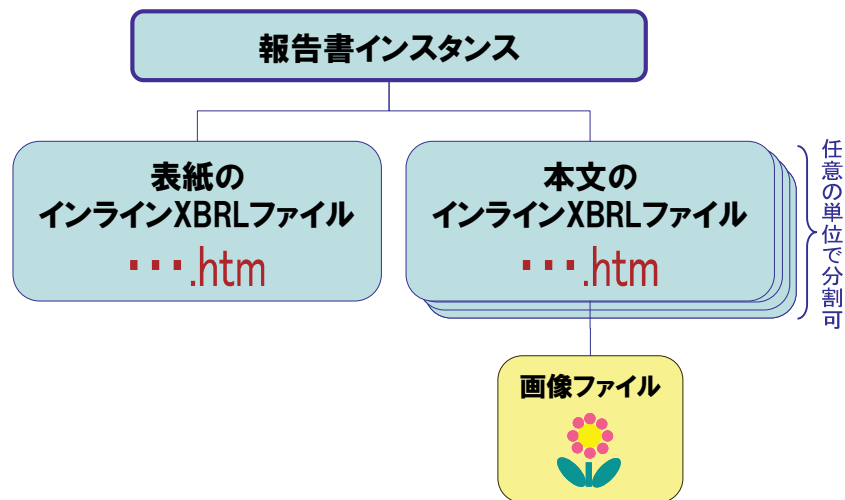
図表 1-4-1 インライン XBRL (イメージ)



作成する報告書インスタンスの全体像は、次の「図表 1-4-2 作成する報告書インスタンスファイルの全体像」のとおりで、大きく分けて「表紙のインライン XBRL ファイル」及び「本文のインライン XBRL ファイル」が必要です。本文ファイルは、任意の複数のファイルに分けることができます。

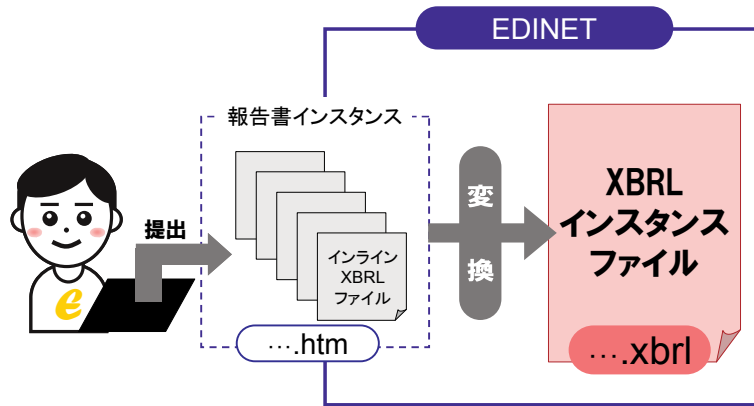
- ※財務諸表本表のみインライン XBRL で作成する場合、表紙のインライン XBRL ファイルは不要です。
- ※提出書類全体が XBRL 対象で、財務諸表本表を含む場合、別途監査報告書の報告書インスタンスが必要です。
- ※画像ファイルが必要な提出書類の場合は、別途作成します。使用可能なファイルの種類については『提出書類ファイル仕様書』を参照してください。

図表 1-4-2 作成する報告書インスタンスファイルの全体像



また、作成したインライン XBRL ファイルから、XBRL インスタンスのファイル作成が可能となっています。開示書類等提出者が作成したインライン XBRL ファイルを EDINET に登録すると、XBRL インスタンスファイルが自動作成されます。

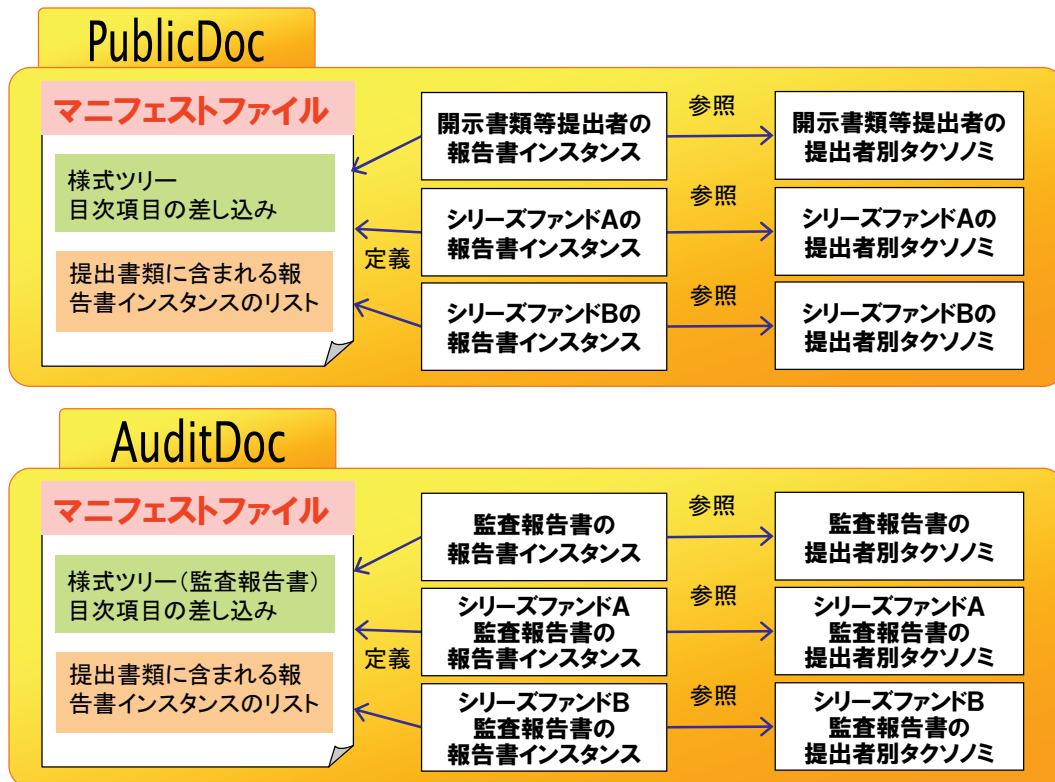
図表 1-4-3 XBRL インスタンスファイルが作成されるイメージ



## 1-5 マニフェストファイル

「マニフェストファイル」は、主に提出書類ファイル構成の情報を定義するファイルです。マニフェストファイルは、「縦覧用」、「監査報告書用」及び「非縦覧用」の3種類があります。情報の利用者は、マニフェストファイルを見れば提出書類の各ファイル名、目次が定義されている拡張リンクロール、複数の報告書インスタンスから提出書類が構成される場合の目次の差し込み位置等が確認できます。次の「図表 1-5-1 マニフェストファイルのイメージ」は、シリーズファンドの例です。

図表 1-5-1 マニフェストファイルのイメージ





# 2

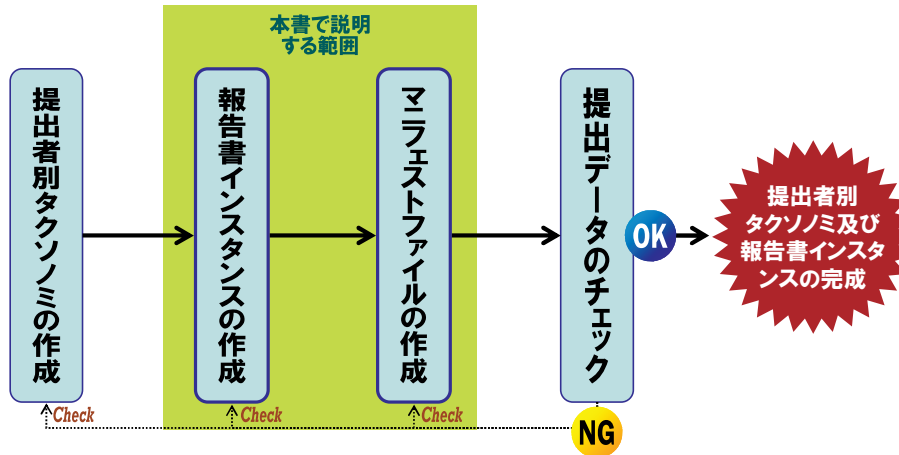
## 報告書インスタンスの 作成プロセス

● ..... ●  
本章では、報告書インスタンスの作成プロセスについて  
説明します。

## 2-1 報告書インスタンス作成全体の流れ

提出データを作成するには、「図表 2-1-1 提出者別タクソミ及び報告書インスタンス作成の流れ」に従い作業を進めます。

図表 2-1-1 提出者別タクソミ及び報告書インスタンス作成の流れ



本書では、「報告書インスタンスの作成」と「マニフェストファイルの作成」について説明します。作成した提出データに対するチェックについては、『バリデーションガイドライン』を参照してください。


報告書インスタンスを作成する際には、大きく分けて次の三つのステップがあります。全体の流れは、次の「図表 2-1-2 報告書インスタンスの作成手順」を参照してください。

図表 2-1-2 報告書インスタンスの作成手順

: 本書で説明します。 : 本書では説明しません。


## 提出者別タクソノミの作成

提出者別タクソノミを作成します。

 **参照** 『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』


### Step1 報告書インスタンス作成前の準備

報告内容や必要な情報を収集し、ファイルを分割する場合はその単位を決めておきます。また、必要に応じて提出書類様式をダウンロードしたり、ツールを用意したりします。

 **参照** 「3章 報告書インスタンス作成前の準備」  
「4章 報告書インスタンスのファイル仕様」

### Step2 報告書インスタンスの作成

報告書インスタンスを作成します。

 **参照** 「5章 報告書インスタンスの作成」

#### 1) コンテキスト及びユニットの定義

コンテキストとユニットを定義します。

#### 2) DEIの内容を記載

DEIの内容を記載します。

#### 3) 報告する値や内容の記載

報告項目の各値や内容をインライン XBRL で記載し、ファイルを完成します。


#### 4) 添付ファイル等の作成

画像ファイル、付随ファイル等がある場合にファイルを作成します。  
※ファイルサイズ、ファイル命名規約等は、『提出書類ファイル仕様書』を参照してください。



### Step3 マニフェストファイルの作成

マニフェストファイルを作成します。

 **参照** 「6 章 マニフェストファイルの作成」

# 3

## 報告書インスタンス作成前の準備

● ..... ●  
本章では、報告書インスタンス作成前の準備について説明します。

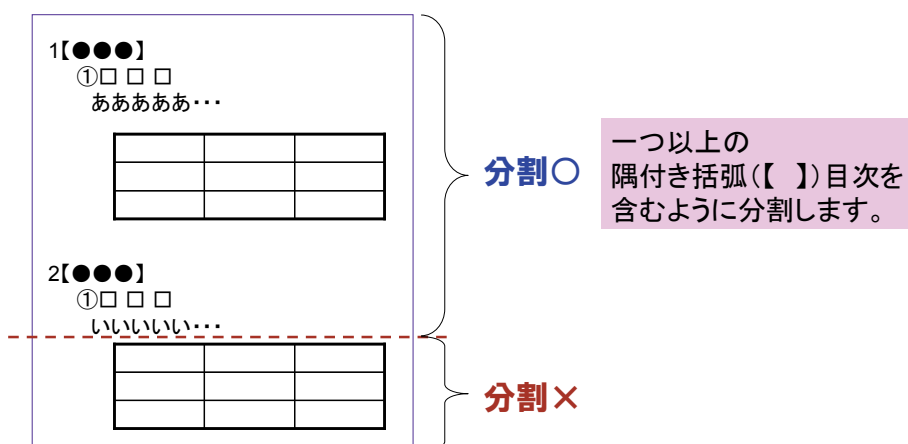
## 3-1 報告書インスタンス作成前の準備

報告書インスタンスの作成前に、報告書インスタンスに記載する内容、添付書類等を収集し決定します。併せてインライン XBRL で表現する文章、値等については、提出者別タクソノミに定義したどの要素を使用するののかもこのステップで決定しておきます。

### 注意 インライン XBRL ファイル分割時の注意

インライン XBRL ファイルを分割する必要がある場合、分割単位を決定しておきます。インライン XBRL ファイルには、原則一つ以上の隅付き括弧(【 】)目次を含む必要があります。インライン XBRL ファイルを分割する場合には「図表 3-1-1 インライン XBRL ファイル分割時の注意」のようにします。

図表 3-1-1 インライン XBRL ファイル分割時の注意



# 4

## 報告書インスタンスの ファイル仕様

● ..... ●  
本章では、報告書インスタンスのファイル仕様について  
説明します。

## 4-1 報告書インスタンスのファイル構成

報告書インスタンスのファイル構成について説明します。

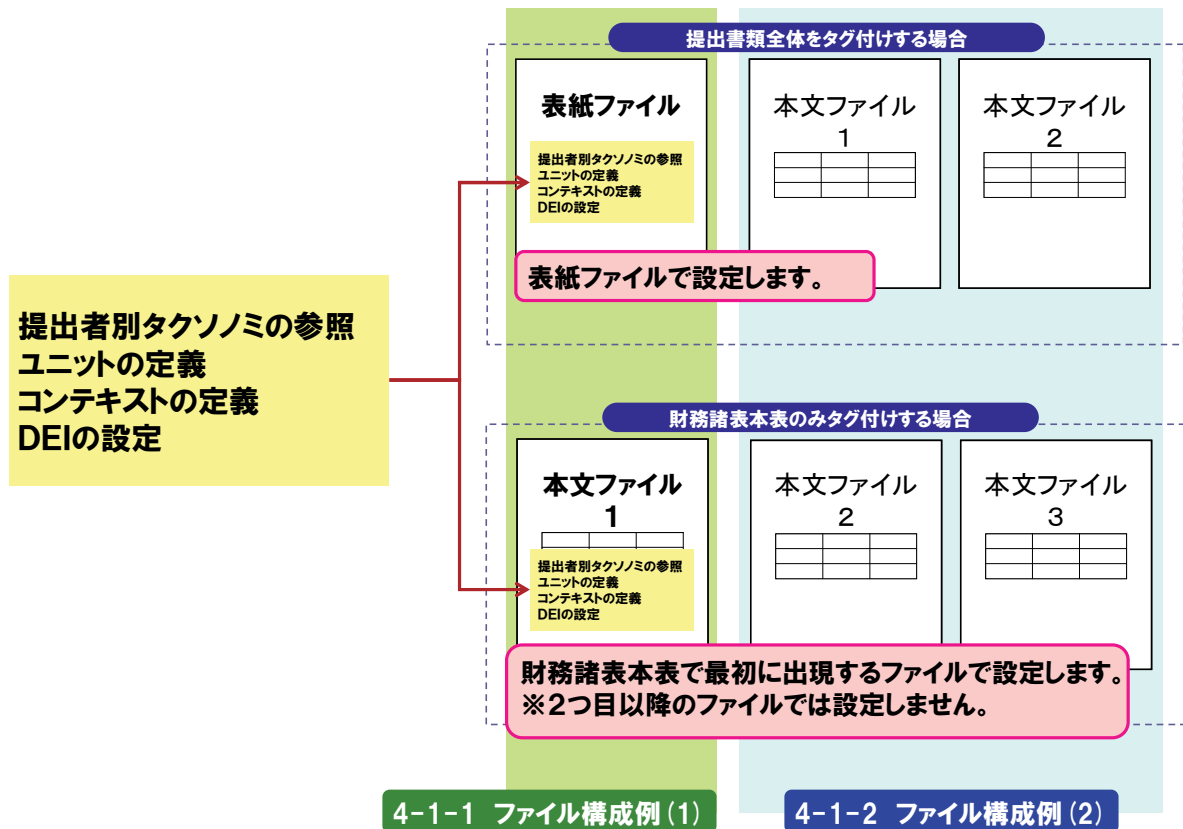
報告書インスタンスには、提出者別タクソノミの参照、ユニットの定義、コンテキストの定義及び DEI の設定を記載する必要があります。これらの情報は、提出書類全体をタグ付けする場合と財務諸表本表のみをタグ付けする場合とで、記載する場所が異なります。次の、「図表 4-1-1 ファイル構成のイメージ」にあるように、提出書類全体をタグ付けする場合は、表紙ファイルに記載します。

財務諸表本表のみタグ付けする場合は、本表の一つ目のファイルに記載します。監査報告書ファイルには、提出者別タクソノミの参照及びコンテキストの定義を記載します（ユニットの定義及び DEI の設定の記載は不要です。）。

提出書類全体をタグ付けする場合の表紙ファイル並びに財務諸表本表のみタグ付けする場合の本表一つ目のファイルイメージ及び監査報告書ファイルは、「4-1-1 ファイル構成例(1)」を参照してください。

提出書類全体をタグ付けする場合の本文ファイルと、財務諸表本表のみタグ付けする場合の二つ目以降のファイルイメージは、「4-1-2 ファイル構成例(2)」を参照してください。

図表 4-1-1 ファイル構成のイメージ











## 4-1-1 ファイル構成例(1)

提出書類全体をタグ付けする場合の表紙ファイル並びに財務諸表本表のみタグ付けする場合の本表一つ目のファイル及び監査報告書ファイルの全体像は、次の「図表 4-1-2 表紙ファイルのイメージ」のようになります。



図表 4-1-2 表紙ファイルのイメージ

<pre>&lt;?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?&gt; &lt;html version="1.0" xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xmlns:ix="http://www.xbrl.org/2003/inlineXBRL" xmlns:ixt="http://www.xbrl.org/inlineXBRL/transformation" xmlns:jpdei_cor="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpcrp/2012-06-30/jpcrp_cor" xmlns:jppfs_cor="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpcrp/2012-06-30/jpcrp_cor" xmlns:jpcrp030000-asr_X99001-000="http://31/01/2012-06-28" xmlns:xbrldi="http://xbrl.org/2006/xbrldi" xmlns:iso4217="http://www.xbrl.org/2003/iso4217" xmlns:nonnum="http://www.xbrl.org/dtr/type/non-numeric" &lt;/html&gt;</pre>	<p><b>XML 宣言</b> XML のバージョンや文字コード等を定義します。</p>
<pre>&lt;head&gt; &lt;meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" /&gt; &lt;style type="text/css"&gt; body {margin: 9pt; font-family: "MS Mincho", serif; font-size: 9pt; background-color: white} ... &lt;/style&gt; &lt;title&gt;開示府令&amp;#160;&amp;#160;有価証券報告書(XBRLタグ付けサンプル)&lt;/title&gt; &lt;/head&gt;</pre>	<p><b>名前空間宣言</b> 利用する名前空間のプレフィックス及び名前空間 URI を宣言します。</p> <p> <b>参照</b> 「5章 報告書インスタンスの作成 5-2 名前空間プレフィックスと名前空間 URI」</p>
<pre>&lt;body&gt; &lt;div class="root"&gt; &lt;h2&gt;【表紙】&lt;/h2&gt; &lt;br /&gt; &lt;table&gt; ... &lt;td style="padding: 0pt; vertical-align: top"&gt; &lt;p style="margin-top: 0pt; margin-right: 9.0pt; margin-left: 9.0pt"&gt;【提出書類】&lt;/p&gt; &lt;/td&gt; &lt;td style="padding: 0pt; vertical-align: top"&gt; &lt;p style="margin: 0pt; margin-bottom: 0pt; line-height: 13.5pt"&gt; &lt;ix:nonNumeric name="jpcrp_cor:DocumentTitleCoverPage" contextRef="FilingDateInstant"&gt;有価証券報告書&lt;/ix:nonNumeric&gt; &lt;/p&gt; &lt;/td&gt;</pre>	<p><b>インスタンス値の記載</b> 金額情報、開示情報等を設定します。各値はインライン XBRL で記載します。</p> <p> <b>参照</b> 「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-2 数値を表現する要素」 「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-3 数値以外の値を表現する要素」</p>
<pre>&lt;div style="display: none"&gt; ... &lt;ix:header&gt; &lt;ix:hidden&gt;</pre>	<p><b>DEI、タクソノミ参照、コンテキスト定義及びユニット定義は、&lt;ix:header&gt;タグ内で指定します。</b></p>
<pre>&lt;ix:nonNumeric name="jpdei_cor:EDINETCodeDEI" contextRef="FilingDateInstant"&gt;EDINETCode&lt;/ix:nonNumeric&gt; &lt;ix:nonNumeric name="jpdei_cor:FundCodeDEI" contextRef="FilingDateInstant"&gt;FundCode&lt;/ix:nonNumeric&gt; &lt;ix:nonNumeric name="jpdei_cor:SecurityCodeDEI" contextRef="FilingDateInstant"&gt;SecurityCode&lt;/ix:nonNumeric&gt; ... &lt;/ix:hidden&gt;</pre>	<p><b>DEI の設定</b> DEI を設定します。</p> <p> <b>参照</b> 「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-6 DEI の記載」</p>
<pre>&lt;ix:references&gt; &lt;link:schemaRef xlink:type="simple" xlink:href="jpcrp030000-asr_X99001-000.xsd" /&gt; &lt;/ix:references&gt; &lt;ix:resources&gt; &lt;link:roleRef xlink:type="simple" xlink:href="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpcrp/2012-06-30/jpcrp_cor" roleURI="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpcrp/2012-06-30/jpcrp_cor" /&gt; &lt;link:roleRef xlink:type="simple" xlink:href="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpcrp/2012-06-30/jpcrp_cor" roleURI="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpcrp/2012-06-30/jpcrp_cor" /&gt; ... &lt;/ix:resources&gt;</pre>	<p><b>提出者別タクソノミの参照</b> 提出者別タクソノミへの参照を設定します。</p> <p> <b>参照</b> 「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-7 スキーマ参照とリンクベース参照の定義」</p>
<pre>&lt;xbrli:context id="FilingDateInstant"&gt; &lt;xbrli:entity&gt; &lt;xbrli:identifier scheme="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp"&gt;EDINETCode&lt;/xbrli:identifier&gt; &lt;xbrli:period&gt; &lt;xbrli:instant&gt;2012-06-28&lt;/xbrli:instant&gt; &lt;/xbrli:period&gt; &lt;/xbrli:context&gt; ... &lt;xbrli:unit id="JPY"&gt;&lt;xbrli:measure&gt;iso4217:JPY&lt;/xbrli:measure&gt;&lt;/xbrli:unit&gt; &lt;xbrli:unit id="pure"&gt;&lt;xbrli:measure&gt;xbrli:pure&lt;/xbrli:measure&gt;&lt;/xbrli:unit&gt; &lt;xbrli:unit id="shares"&gt;&lt;xbrli:measure&gt;xbrli:shares&lt;/xbrli:measure&gt;&lt;/xbrli:unit&gt; ... &lt;/xbrli:resources&gt;</pre>	<p><b>コンテキストの定義</b> 報告する会計年度、報告主体等を定義します。</p> <p> <b>参照</b> 「5章 報告書インスタンスの作成 5-4 コンテキストの定義」</p>
<pre>&lt;xbrli:unit id="JPY"&gt;&lt;xbrli:measure&gt;iso4217:JPY&lt;/xbrli:measure&gt;&lt;/xbrli:unit&gt; &lt;xbrli:unit id="pure"&gt;&lt;xbrli:measure&gt;xbrli:pure&lt;/xbrli:measure&gt;&lt;/xbrli:unit&gt; &lt;xbrli:unit id="shares"&gt;&lt;xbrli:measure&gt;xbrli:shares&lt;/xbrli:measure&gt;&lt;/xbrli:unit&gt; ... &lt;/ix:resources&gt; &lt;/ix:header&gt; &lt;/div&gt; &lt;/body&gt; &lt;/html&gt;</pre>	<p><b>ユニットの定義</b> 報告する通貨、株数等の単位を定義します。※監査報告書ファイルの場合は、不要です。</p> <p> <b>参照</b> 「5章 報告書インスタンスの作成 5-5 ユニットの定義」</p>

## 4-1-2 ファイル構成例 (2)

提出書類全体をタグ付けする場合の本文ファイル及び財務諸表本表のみタグ付けする場合の二つ目以降のファイルの全体像は、次の「**図表 4-1-3 本文ファイルのイメージ(提出書類全体をタグ付けの対象とする場合)**」のようになります。

図表 4-1-3 本文ファイルのイメージ(提出書類全体をタグ付けの対象とする場合)

<pre>&lt;?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?&gt; &lt;html version="-//XBRL International//DTD XHTML Inline xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xmlns:ix="http://www xmlns:ixt="http://www.xbrl.org/inlineXBRL/transformation/ xmlns:jpdei_cor="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpcrp/2012-06-30/jpcrp_cor" xmlns: 30/jppfs_cor" xmlns:jpcrp030000-asr_X99001-000="http:// 31/01/2012-06-28" xmlns:xbrldi="http://xbrl.org/2006/xbrldi xmlns:iso4217="http://www.xbrl.org/2003/iso4217" xmlns: xmlns:nonnum="http://www.xbrl.org/dtr/type/non-numeric" &lt;head&gt; &lt;meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; char &lt;style type="text/css"&gt; body {margin: 9pt; font-family: "MS Mincho",serif; font-size: 9pt; background-color: white} ... &lt;/style&gt; &lt;title&gt;開示府令&amp;#160;&amp;#160;有価証券報告書(XBRLタグ付けサンプル)&lt;/title&gt; &lt;/head&gt; &lt;body&gt;</pre>	<p><b>XML 宣言</b> XML のバージョンや文字コード等を定義します。</p>
<pre>&lt;div class="root"&gt; &lt;h1&gt;第一部【企業情報】&lt;/h1&gt; &lt;div&gt; &lt;br /&gt; &lt;/div&gt; &lt;h2&gt;第1【企業の概況】&lt;/h2&gt; &lt;div&gt; &lt;/div&gt; &lt;h3&gt;1【主要な経営指標等の推移】&lt;/h3&gt; &lt;div&gt; &lt;/div&gt; &lt;ix:nonNumeric name="jpcrp_cor:BusinessResultsOfGro &lt;div class="content"&gt;(1) 連結経営指標等&lt;/div&gt; &lt;div class="pageBreakAfter"&gt; &lt;table style="border-collapse: collapse"&gt; ... &lt;td style="border:solid black 0.75pt; padding: 0pt"&gt; &lt;p style="margin-top: 0pt;margin-right: 4.5pt; margin-bottom: 0pt;margin-left: 4.5pt; line-height: 13.5pt; text-align: right;"&gt; &lt;ix:nonFraction name="jpcrp_cor:NetSalesSummaryOfBusinessResults" contextRef="Prior4YearDuration" unitRef="JPY" decimals="-6" scale="6" format="ixt:numdotdecimal"&gt;231,282&lt;/ix:nonFraction&gt;&lt;/p&gt; &lt;/td&gt; &lt;td style="border:solid black 0.75pt; padding: 0pt"&gt; &lt;p style="margin-top: 0pt;margin-right: 4.5pt; margin-bottom: 0pt;margin-left: 4.5pt; line-height: 13.5pt; text-align: right;"&gt; &lt;ix:nonFraction name="jpcrp_cor:NetSalesSummaryOfBusinessResults" contextRef="Prior3YearDuration" unitRef="JPY" decimals="-6" scale="6" format="ixt:numdotdecimal"&gt;273,802&lt;/ix:nonFraction&gt;&lt;/p&gt; &lt;/td&gt; ... &lt;/div&gt; &lt;/body&gt; &lt;/html&gt;</pre>	<p><b>名前空間宣言</b> 利用する名前空間のプレフィックス及び名前空間 URI を宣言します。</p> <p> <b>参照</b> 「5 章 報告書インスタンスの作成 5-2 名前空間プレフィックスと名前空間 URI」</p>
	<p><b>インスタンス値の記載</b> 金額情報、開示情報等を設定します。各値はインライン XBRL で記載します。</p> <p> <b>参照</b> 「5 章 報告書インスタンスの作成 5-6-2 数値を表現する要素」 「5 章 報告書インスタンスの作成 5-6-3 数値以外の値を表現する要素」</p>

## 4-2 報告書インスタンスのファイル名

提出書類の命名規約について説明します。

### 注意 ファイル名設定時の注意

提出書類全体をタグ付けの対象とする場合も、財務諸表本表のみをタグ付けの対象とする場合も、ファイル名には提出する提出書類全体を表す府令略号、様式番号及び報告書略号を使用します。財務諸表を表す「pfs」は使用しないよう注意してください。

### 4-2-1 表紙ファイル

表紙ファイルの命名規約は、次の「図表 4-2-1 表紙ファイルの命名規約」のとおりです。

なお、財務諸表本表のみをタグ付けの対象とする場合、表紙のインラインXBRL ファイルは作成しません。

図表 4-2-1 表紙ファイルの命名規約

#### 表紙ファイルの命名規約

0000000\_header\_jp {府令略号} {様式番号} - {報告書略号} - {報告書連番(3桁)}\_ {EDINETコード又はファンドコード} - {追番(3桁)}\_ {報告対象期間末日|報告義務発生日}\_ {報告書提出回数(2桁)}\_ {報告書提出日}\_ ixbrl.htm

- ※表紙ファイル名は、先頭の7桁数値と6文字が「0000000\_header」と決まっています。
- ※{追番 3桁}は「000」から開始し、シリーズファンド等複数の報告書インスタンスファイルとなる場合、1ずつ増加します。
- ※{報告書提出回数(2桁)}は、初回提出時は「01」を設定し、提出回数に合わせて1ずつ増加します。
- ※各項目の詳細は、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。また、設定値の詳細は、設定値の詳細は、『添付 4 各種命名規約の略号、連番及び追番一覧』を参照してください。

図表 4-2-2 表紙ファイル名の設定例

#### 【例】

##### 《条件》

対象書類	有価証券報告書		
EDINETコード	X99999	追番	000
報告対象期間末日	2012年3月31日		
提出日	2012年6月28日	提出回数	初回提出

##### 《ファイル名の例》

0000000\_header\_jpcrp030000-asr-001\_X99999-000\_2012-03-31\_01\_2012-06-28\_ixbrl.htm

## 4-2-2 本文ファイル

本文ファイルの命名規約は、次の「図表 4-2-3 本文ファイルの命名規約」のとおりです。

図表 4-2-3 本文ファイルの命名規約

本文ファイルの命名規約	
<p>{7桁数値}_{英字(6文字)}_jp{府令略号}{様式番号}-{報告書略号}-{報告書連番(3桁)}_ {EDINETコード又はファンドコード} - {追番(3桁)}_ {報告対象期間期末日 報告義務発生日}_ {報告書提出回数(2桁)}_ {報告書提出日}_ixbrl.htm</p>	
<p>※{追番 3桁}は「000」から開始し、シリーズファンド等複数の報告書インスタンスファイルとなる場合、1ずつ増加します。</p>	
<p>※{報告書提出回数(2桁)}は、初回提出時は「01」を設定し、提出回数に合わせて1ずつ増加します。</p>	
<p>※{7桁数値}と{英字(6文字)}については「<a href="#">ポイント</a> ファイル名の先頭(7桁数値と6文字)の考え方」を参照してください。</p>	
<p>※各項目の詳細は、『提出者別タクソミ作成ガイドライン』を参照してください。また、設定値の詳細は、『添付 4 各種命名規約の略号、連番及び追番一覧』を参照してください。</p>	

図表 4-2-4 本文ファイル名の設定例

【例】			
《条件》			
対象書類	有価証券報告書		
EDINETコード	X99999	追番	00
報告対象期間末日	2012年3月31日		
提出日	2012年6月28日	提出回数	初回提出
《ファイル名の例》			
0101010_honbun_jpcrp030000-asr-001_X99999-000_2012-03-31_01_2012-06-28_ixbrl.htm			

## ◎ポイント ファイル名の先頭(7桁数値と6文字)の考え方

ファイル名の先頭(7桁数値と6文字)は「図表 4-2-5 ファイル名の先頭の考え方」のように設定します。

図表 4-2-5 ファイル名の先頭の考え方



- ① 目次1階層(2桁半角数字)<sup>※1</sup>  
例)第一部の内容について書き始める場合 → 01xxxxx\_任意名.htm
- ② 目次2階層(2桁半角数字)<sup>※1</sup>  
例)第2の内容について書き始める場合 → xx02xxx\_任意名.htm
- ③ 連番(000からの3桁半角数字)
- ④ \_(アンダースコア)及び任意名(6文字の半角英小文字又は数字)  
※任意名は、6文字で設定します。一意である必要はありません。

※1: 書き始めの項目が含まれる目次の階層に合わせてファイル名の先頭(7桁数値と6文字)を設定します(目次に合わせて細かくファイルを分ける必要はありません。。「00」から設定が可能です。また、インラインXBRLファイルが複数個ある場合、ファイル名は先頭の7桁数値で一意となる必要があります。各種連番、追番の開始番号、利用方法、具体例等については、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン 添付4 各種命名規約の略号、連番及び追番一覧』を参照してください。

### ■ 本文ファイルのファイル名

本文ファイル名の設定例について説明します。

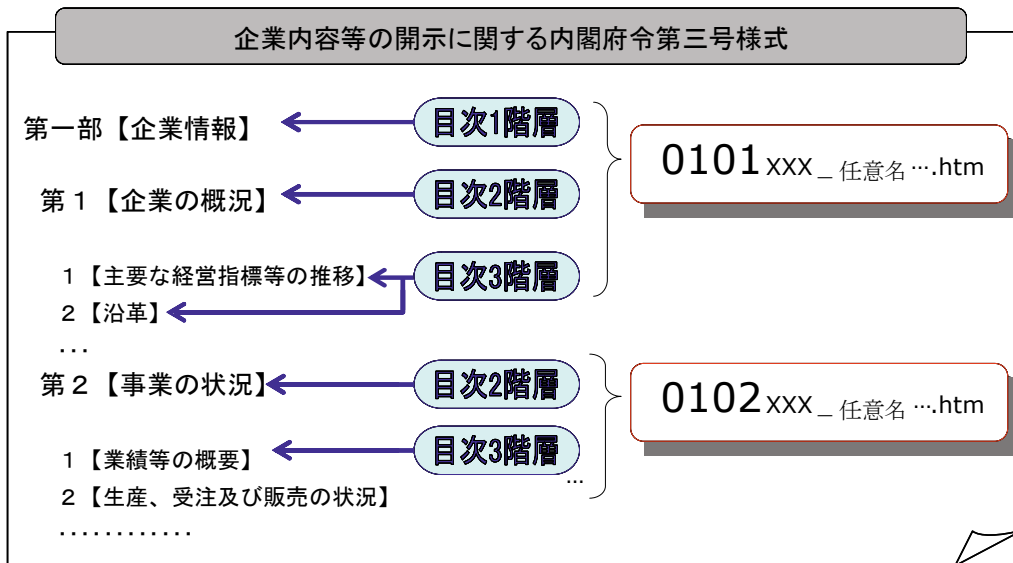
各様式には、目次項目に「レベル」があります。様式を確認し、最初に登場する目次が1レベル、以降、項番の種類が変わる目次項目ごとに2レベル、3レベル・・・となります。例えば「企業内容等の開示に関する内閣府令第三号様式」の場合は、次の「図表 4-2-6 目次項目のレベル」のとおりです。

図表 4-2-6 目次項目のレベル

様式の目次	レベル
第一部【…】	1レベル(目次1階層)
第1【…】	2レベル(目次2階層)
1【…】	3レベル(目次3階層)
(1)【…】	4レベル(目次4階層)
①【…】	5レベル(目次5階層)

本文ファイル名で使用する目次階層は、目次1階層と目次2階層のみです。よって、次の「図表 4-2-7 ファイル名の設定例」のようになります。

図表 4-2-7 ファイル名の設定例



◎ポイント 本文ファイルの連番のつけ方について

本文ファイルの連番部分を設定する場合は、010、011、012…のように連続した番号で設定することもできますが、「図表 4-2-8 本文ファイルの連番のつけ方」のように番号を10おきに設定すると、後でファイルの挿入や、ファイルを分割する場合に、メンテナンスが容易になります。

図表 4-2-8 本文ファイルの連番のつけ方

番号を10おきごとに設定した場合	ファイルを追加分割した場合	番号を順番に設定した場合	ファイルを追加分割した場合
xxxx010_任意名...htm	xxxx010_任意名...htm	xxxx010_任意名...htm	xxxx010_任意名...htm
	xxxx015_任意名...htm		xxxx011_任意名...htm
xxxx020_任意名...htm	xxxx020_任意名...htm	xxxx011_任意名...htm	xxxx012_任意名...htm

ファイルの追加  
※以降のファイル名に関係なく、「011」から「019」までの間でファイル名を付けることが可能

ファイル名の変更なし

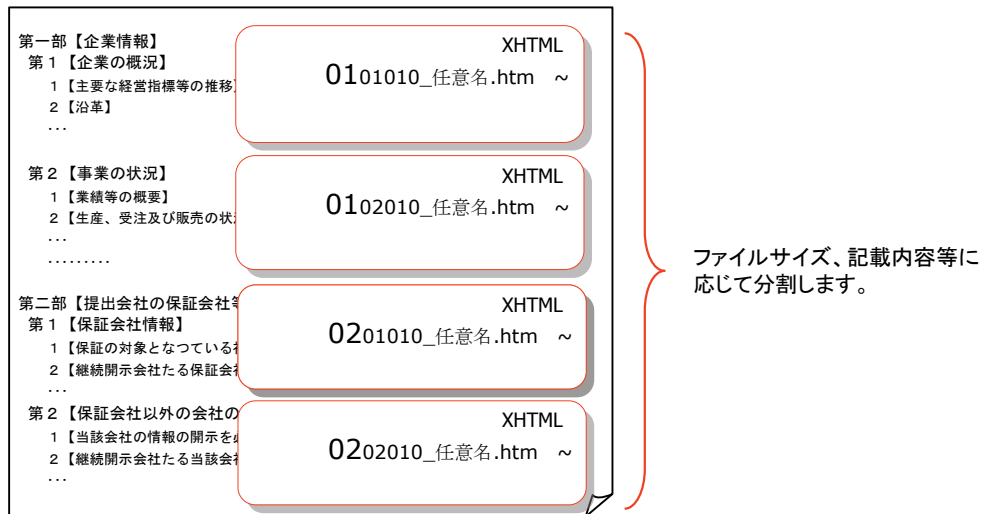
ファイルの追加

ファイル名の変更  
※追加されたファイル名からの連番で変更が必要

例えば、網掛けの箇所のファイルを分割したい場合、ファイルを追加したい場合及び「番号を順番に連続して設定した場合」は、以降のファイル名を全て変更しなくてはなりません。が、「番号を10おきに設定した場合」は、次のファイル名までに9ファイル分の空きがありますので、ファイルの追加や分割が容易に行えます。

ファイル名の設定イメージは、次の「図表 4-2-9 ファイル名の設定イメージ」のとおりです。

図表 4-2-9 ファイル名の設定イメージ



### 4-2-3 監査報告書ファイル

監査報告書ファイルの命名規約は、次の「図表 4-2-10 監査報告書ファイルの命名規約」のとおりです。

図表 4-2-10 監査報告書ファイルの命名規約

**監査報告書ファイルの命名規約**

**jpaud- {監査報告書略号} - {当期又は前期の別} {連結又は個別の別} - {報告書連番 (3桁)}\_ {EDINETコード又はファンドコード} - {追番 (3桁)}\_ {報告対象期間期末日}\_ {報告書提出回数 (2桁)}\_ {報告書提出日}\_ixbri.htm**

※各項目の詳細は、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。また、設定値の詳細は、『添付 4 各種命名規約の略号、連番及び追番一覧』を参照してください。

図表 4-2-11 監査報告書ファイル名の設定例

**【例】**

《条件》

対象書類	監査報告書		
当期又は前期の別	当期		
連結又は個の別	個別		
EDINETコード	X99999	追番	000
報告対象期間末日	2012年3月31日		
提出日	2012年6月28日	提出回数	初回提出

《ファイル名の例》

**jpaud-aar-cn-001\_X99999-000\_2012-03-31\_01\_2012-06-28\_ixbri.htm**



## 4-2-4 XBRL インスタンスファイル

作成したインライン XBRL ファイルを EDINET に登録し、XBRL インスタンスファイルが自動作成される際のファイル命名規約は、次の「図表 4-2-12 XBRL インスタンスファイルの命名規約」のとおりです。なお、自動作成される XBRL インスタンスファイル名は、マニフェストファイルに記載します。

図表 4-2-12 XBRL インスタンスファイルの命名規約

XBRL インスタンスファイルの命名規約	
<b>報告書</b>	<p>jp {府令略号} {様式番号} - {報告書略号} - {報告書連番 (3 桁)}_ {EDINET コード又はファンドコード} - {追番 (3 桁)}_ {報告対象期間期末日 報告義務発生日}_ {報告書提出回数 (2 桁)}_ {報告書提出日}.xbrl</p>
<b>監査報告書</b>	<p>jpaud- {監査報告書略号} - {当期又は前期の別} {連結又は個別の別} - {報告書連番 (3 桁)}_ {EDINET コード又はファンドコード} - {追番 (3 桁)}_ {報告対象期間期末日}_ {報告書提出回数 (2 桁)}_ {報告書提出日}.xbrl</p>

図表 4-2-13 XBRL インスタンスファイルの設定例

【例】			
《条件》			
対象書類	有価証券報告書		
EDINET コード	X99999	追番	00
報告対象期間末日	2012 年 3 月 31 日		
提出日	2012 年 6 月 28 日	提出回数	初回提出
《ファイル名の例》			
jpcrp030000-asr-001_X99999-000_2012-03-31_01_2012-06-28.xbrl			



## 4-3 利用可能な文字コードと文字

報告書インスタンスで使用する文字コード（エンコーディング形式）は、「UTF-8」です。報告書インスタンスでは、文字コードを UTF-8 に設定する際に BOM(Byte Order Mark)を付与することを原則とします。BOM を付与していない場合、ブラウザで文字化けを起こす可能性があります。

また、提出書類作成時に使用できる文字コードは、次の分類に含まれる文字です。

### 参照 『提出書類ファイル仕様書』

- a. 半角文字（英数字及び記号）  
※JIS X 0201-1997、半角片仮名を除く。
- b. JIS X 0208-1997 非漢字セット（全角）
- c. NEC 特殊文字
- d. JIS 第一水準漢字 ※JIS X 0208-1997
- e. JIS 第二水準漢字 ※JIS X 0208-1997
- f. NEC 選定 IBM 拡張文字
- g. IBM 拡張文字

### 4-3-1 実体参照の入力

タグで用いられる「<」、「>」等はそのままインスタンス値として入力できません。

このような文字を報告項目内で利用する場合は、「**実体参照**」で入力します。実体参照は、エスケープした文字を記載することにより、インスタンスファイル上で XBRL のタグと区別します。値の区別を付けたい場合や、本文中に特定の記号を表示させたい場合に実体参照が必要です。エスケープが必要な入力文字とエスケープ後の文字は、次の「**図表 4-3-1 エスケープ文字の一覧**」のとおりです。

図表 4-3-1 エスケープ文字の一覧

No	入力文字	エスケープ後文字
1	<	&lt;
2	>	&gt;
3	&	&amp;
4	“	&quot;
5	'	&apos;

実体参照の例は、次の「**図表 4-3-2 実体参照の例**」のとおりです。

図表 4-3-2 実体参照の例

【例】

<ブラウザでの表示>  
当社グループは、当社、A&B社及びC's社で構成されております。

<インラインXBRLファイルでの記載>  
当社グループは、当社、A&amp;B社及びC&apos;s社で構成されております。

エスケープ文字を用いて  
実体参照

## 4-4 英語表記を入力する項目

---

人名、企業名等を入力する際に、英語表記しなければならない項目があります。DEIで英語表記する項目は、半角で入力する必要があります。DEI以外で英語表記する項目は、全角又は半角で入力できます。

# 5

## 報告書インスタンスの 作成

● ..... ●  
本章では、報告書インスタンスの作成について説明します。

## 5-1 XHTML 要素について

報告書インスタンスは、「1章 報告書インスタンスの概要 1-4 XBRL ファイルの作成について」にあるとおり、XHTML ファイルに XBRL インスタンス中で表される要素を埋め込んで、インライン XBRL ファイルを作成します。

インライン XBRL ファイルを作成するに当たり、XHTML で設定するタグ及びタグの属性について、次のような注意事項があります。

### 使用できないタグ及び属性

セキュリティ対策のため、次のタグ及び属性は使用できません。

#### 使用できないタグの一覧

applet embed font form frame frameset iframe input textarea  
objectplaintext pre script select

※XHTML では「font」の使用を推奨していません。

#### 使用できない属性の一覧

lang onblur onchange onclick ondblclick onfocus onkeydown  
onkeypress onkeyup onload onmousedown onmousemove  
onmouseout onmouseover onmouseuponreset onselect onsubmit  
onunload target

※属性の値として「mailto」を使用し、メール送信の設定を行うことはできません。

### 注意 XHTML ファイル内のコメントについて

style タグ内にはコメントを記載しないでください。EDINET で正常に動作しない場合があります。

### ポイント インライン XBRL で採用する XHTML 規約について

作成するインライン XBRL ファイルのうち、XHTML による設定部分は、「W3C Recommendation XHTML1.1 – Module-based XHTML」に基づいて設定します。拡張子は「.htm」を指定します。

インライン XBRL では基本的に全ての値をタグ付けします。同じ要素が同じ値で複数出現する場合も、全ての値をタグ付けします。

### ポイント XHTML 1.1 について

インライン XBRL と XHTML の違いは、インライン XBRL にはインライン XBRL の独自タグが含まれる点です。

XHTML1.1 の詳細については、<http://www.w3.org/TR/xhtml11/> を参照してください。また、XHTML ファイルを作成する場合、XHTML の基本文法について理解しておく必要があります。基本的な文法として次の点に注意してください。

- ・タグは必ず閉じること。
- ・入れ子になっているタグの終了タグが親タグの終了タグより後ろに来ないこと。

## 5-2 名前空間プレフィックスと名前空間 URI

報告書インスタンスでは、次の「図表 5-2-1 報告書インスタンスで定義する名前空間プレフィックス」の名前空間宣言を「<html>タグ」に定義します。

図表 5-2-1 報告書インスタンスで定義する名前空間プレフィックス

名前空間プレフィックス	名前空間 URI
ix(インライン XBRL)	xmlns:ix="http://www.xbrl.org/2008/inlineXBRL"
ixt(インライン XBRL の Transformation Rule)	xmlns:ixt="http://www.xbrl.org/inlineXBRL/transformation/2011-07-31"

また、タグ付けに利用している語彙スキーマ等、インライン XBRL で利用する名前空間プレフィックスと名前空間 URI を「<html>タグ」に定義します。定義する名前空間 URI は「図表 5-2-2 報告書インスタンスに設定する名前空間プレフィックス及び名前空間 URI の例」を参照してください。

なお、提出者別タクソノミ及び報告書インスタンス内で使用しない名前空間は定義しません。提出者別タクソノミの名前空間プレフィックスと名前空間 URI の詳細は、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。

図表 5-2-2 報告書インスタンスに設定する名前空間プレフィックス及び名前空間 URI の例

No	名前空間プレフィックス	名前空間 URI	備考
1	xbrli	http://www.xbrl.org/2003/instance	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
2	xsi	http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance	XML Schema 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
3	xlink	http://www.w3.org/1999/xlink	XLink 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
4	link	http://www.xbrl.org/2003/linkbase	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
5	iso4217	http://www.xbrl.org/2003/iso4217	インスタンスのユニットで使用する通貨コードについての名前空間宣言
6	num	http://www.xbrl.org/dtr/type/numeric	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
7	nonnum	http://www.xbrl.org/dtr/type/non-numeric	XBRL 仕様で定められているスキーマファイルの名前空間宣言
8	提出者別タクソノミと同一の名前空間プレフィックス	参照先となる提出者別タクソノミの名前空間 URI	詳細は『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。

No	名前空間 プレフィックス	名前空間 URI	備考
9	jp[府令略号](-[報告書略号])_cor	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jp[府令略号](-[報告書略号])/[タクソノミ日付]/jp[府令略号](-[報告書略号])_cor	府令別(報告書別)語彙スキーマの名前空間宣言
10	jppfs_cor	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jppfs/{タクソノミ日付}/jppfs_cor	財務諸表本表語彙スキーマの名前空間宣言
11	jpdei_cor	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpdei/{タクソノミ日付}/jpdei_cor	DEI 語彙スキーマの名前空間宣言
12	xbri1dt	http://xbrl.org/2005/xbri1dt	Dimension1.0 で定められているスキーマファイルの名前空間宣言 ※ディメンションを設定する場合に使用
13	xbri1di	http://xbrl.org/2006/xbri1di	Dimension1.0 で定められているインスタンスファイルの名前空間宣言 ※ディメンションを設定する場合に使用

## 5-3 タクソノミの参照

報告書インスタンスは、必ず、各開示書類等提出者が作成する提出者別タクソノミを参照します。報告対象となる提出者別タクソノミの参照先について、次の「**図表 5-3-1 提出者別タクソノミの参照と使用する要素及び属性**」にある要素を使用し、報告書インスタンスに定義します。

図表 5-3-1 提出者別タクソノミの参照と使用する要素及び属性


参照先	使用する要素	使用する属性
スキーマファイル	schemaRef	href
拡張リンクロール*	roleRef	href

※拡張リンクロールの参照は、フットノートリンクでのみ使用できます。

指定する提出者別タクソノミは同一フォルダ内に配置されるため、次の「**図表 5-3-2 提出者別タクソノミ(スキーマファイル)参照の記載例**」のように参照先となるファイル名のみを指定します。提出者別タクソノミの参照の定義は、インライン XBRL の「リファレンス要素 (ix:references)」内に定義します。また、フットノートの拡張リンクロールの定義は、「リソース要素 (ix:resources)」内に定義します。

 **参照** 「5-6-7 スキーマ参照とリンクベース参照の定義」

図表 5-3-2 提出者別タクソノミ(スキーマファイル)参照の記載例

【例】	
<pre>&lt;ix:header&gt;   &lt;ix:hidden&gt;...&lt;/ix:hidden&gt;   &lt;ix:references&gt;     &lt;link:schemaRef xlink:type="simple"       xlink:href="jpcrp030000-asr-001_X99999-000_2012-03-31_01_2012-06-28.xsd"/&gt;     ...   &lt;/ix:references &gt; &lt;/ix:header&gt;</pre>	 <p><b>ファイル名のみを指定</b></p>

## 5-4 コンテキストの定義

コンテキストの定義について説明します。

### 5-4-1 コンテキストの設定項目

報告書インスタンスのコンテキストでは、id 属性、エンティティ (entity) 要素、期間時点 (period) 要素及びシナリオ (scenario) 要素を設定します。ただし、シナリオ要素は必要な場合のみ設定します。

各設定項目の説明は、次の「**図表 5-4-1 コンテキストの設定項目**」のとおりです。

図表 5-4-1 コンテキストの設定項目

No	設定項目	説明
1	id 属性	コンテキストの識別子(コンテキスト ID)を設定します。
2	entity 要素	スキーム、識別子及びセグメントを設定します。
3	period 要素	期間及び時点を設定します。
4	scenario 要素	ディメンションを使用する場合、軸とメンバーの情報を設定します。ただし、デフォルトメンバーの場合は設定しません。

#### **注意** コンテキスト定義の注意点

- ・報告書インスタンスの本文内で使用しないコンテキストは、定義しません。
- ・報告書インスタンスでは期首時点のコンテキストは、作成しません。  
詳細は、「5-4-4-1 期首日開始時点のコンテキストの作成」を参照してください。
- ・投資信託受益証券の「損益及び剰余金計算書」の期首剰余金又は期末剰余金を意味する場合、「損益計算書等」の期末時点のコンテキストを作成します。



## 5-4-2 コンテキスト ID の命名規約

コンテキスト ID の命名規約は、次の「図表 5-4-2 コンテキスト ID の命名規約」のとおりです。ただし、連結個別ディメンションを含むコンテキスト ID の命名規約は、次の「図表 5-4-3 連結又は個別を表す方法」のとおりです。

図表 5-4-2 コンテキスト ID の命名規約

コンテキスト ID の命名規約	
<b>{相対期間又は時点} {期間又は時点} ( {メンバーの要素名} ) × n ( {連番 3桁} )</b>	
※ディメンションを使用する場合、タグ付けする値に関連するメンバーの数だけコンテキストの定義を行う必要があります。命名規約の「n」は関連するメンバーの数を表す整数です。	
※「{連番 3桁}」は、コンテキスト ID が重複した場合に二つ目からは「002」から開始する連番を付与します。	
※開示書類等提出者が拡張したメンバーを使用する場合は、「{メンバーの要素名}」を「{名前空間プレフィックス}{メンバーの要素名}」に置き換えます。	

図表 5-4-3 連結又は個別を表す方法

	ディメンション使用	ディメンション未使用
連結	「図表 5-4-2 コンテキスト ID の命名規約」と同じです。	{相対期間又は時点}{期間又は時点}({連番 3桁})
個別	{相対期間又は時点}{期間又は時点}_NonConsolidatedMember(( {メンバーの要素名} ) × n) ( {連番 3桁} ) ※この際、NonConsolidatedMember を含めたメンバー要素名の記載順は規定しません。	

※非連結及びファンドは基本的に全て個別ディメンションとなります。報告書内で連結又は個別の区別が行われない箇所(「大株主の状況」等)は、連結個別ディメンションを用いません。

図表 5-4-4 コンテキスト ID の設定値

No	項目	設定値	説明
1	{相対期間又は時点}	CurrentYear	当年度を意味します。
2		Interim	中間期を意味します。
3		Prior1Year	前年度を意味します。
4		Prior1Interim	前中間期を意味します。
5		Prior2Year	前々年度を意味します。
6		Prior{n}Year	{n}年度前を意味します。
7		CurrentYTD	当四半期累計期間を意味します。
8		CurrentQuarter	当四半期会計期間を意味します。
9		Prior{n}YTD	{n}年度前同四半期累計期間を意味します。
10		Prior{n}Quarter	{n}年度前同四半期会計期間を意味します。
11		FilingDate	提出日を意味します。
12		DateOfEvent	基準日を意味します。*
13	{期間又は時点}	Instant	時点を意味します。
14		Duration	期間を意味します。
15	{メンバーの要素名}	メンバーの要素名	メンバーの要素名を意味します。

※ただし、基準日が当会計期間末と同じ日付の場合、当会計期間末を利用します。

## ◎ポイント コンテキストの選び方

コンテキストの選び方について、有価証券報告書を例に説明します。

### ➔ 「相対期間又は時点」の選択指針

様式ツリーに定義された要素でタグ付けする場合は、簡便性を重視し次の画一的なコンテキスト ID を用います。

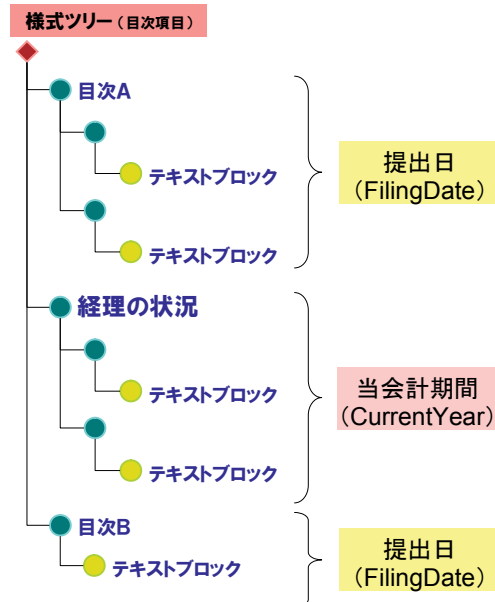
【経理の状況】中の記載 : 当会計期間 (CurrentYear)

【経理の状況】以外の記載 : 提出日 (FilingDate)

※【経理の状況】中の四半期累計期間に係る記載は、当四半期累計期間のコンテキスト ID を、四半期会計期間に係る記載は、当四半期会計期間のコンテキスト ID をそれぞれ用いることに注意してください。

※様式ツリーの要素が詳細ツリーと関連している場合、関連する詳細ツリーの要素でタグ付けするコンテキスト ID は、必ずしも様式ツリーの要素でタグ付けするコンテキスト ID と一致しないことに注意してください。例えば、【大株主の状況】の詳細ツリーの要素は、基準日 (DateOfEvent) のコンテキスト ID でタグ付けします。

図表 5-4-5 様式ツリーに定義された要素でタグ付けする場合



詳細ツリーに定義された要素でタグ付けする場合は、利用するコンテキストを個々に判断する必要があります。「7 章 報告書インスタンスを作成する際の注意事項 7-8 詳細化範囲のタグ付け指針」を参照してください。

➡ 「期間又は時点」の選択指針

「期間又は時点」は、要素の periodType 属性と整合している必要があります。

図表 5-4-6 期間又は時点の選択指針

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金		95,111
受取手形及び売掛金		※7 76,965
有価証券	41,625	39,640
たな卸資産	※1 16,792	※1 13,434
繰延税金資産	8,270	6,934
その他	14,717	14,450
貸倒引当金	△839	△735
流動資産合計	235,653	245,799

**periodType属性が「instant」の要素**

**時点(Instant)**

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	316,934	323,609
売上原価	※2 232,829	※2 234,801
売上総利益		88,808
販売費及び一般管理費		※1 68,168
営業利益		20,640
営業外収益		
受取利息	1,680	1,475
受取配当金	441	486
その他	4,054	4,955
営業外収益合計	6,175	6,916
営業外費用		
支払利息	10,648	10,258
有価証券売却損	822	962

**periodType属性が「duration」の要素**

**期間(Duration)**

その他の指針については、「7章 報告書インスタンスを作成する際の注意事項」を参照してください。

### 5-4-3 エンティティ要素の設定

コンテキストのエンティティ (entity) 要素は、次の「図表 5-4-7 コンテキストのエンティティ(entity)要素の設定」のとおりです。

図表 5-4-7 コンテキストのエンティティ(entity)要素の設定

No	項目	値	説明
1	スキーム(scheme)	http://info.edinet-dev.fs.a.go.jp	EDINET タクソノミの URI を設定します。
2	識別子(identifier)	{EDINET コード又はファンドコード}-{追番(3桁)}	EDINETコード又はファンドコードを設定します。
3	セグメント(segment)	設定なし	—

※追番は「000」から開始します。シリーズファンドの財務諸表本表には追番を「001」以降とした値を使用します。

### 5-4-4 コンテキストの期間時点 (period) 要素の設定方法

コンテキストの期間時点 (period) 要素の子要素の設定は、次の「図表 5-4-8 期間時点(period)要素の子要素の設定」のとおりです。

図表 5-4-8 期間時点(period)要素の子要素の設定

No	期間又は時点	子要素名	子要素の値
1	期間	期首日又は期間の開始日 (startDate)	報告する会計期間(前期又は当期)の期首日 YYYY-MM-DD 形式
2		期末日又は期間の終了日 (endDate)	報告する会計期間(前期又は当期)の期末日 YYYY-MM-DD 形式 ※startDate と同じ日付は設定できません。
3	時点	時点 (instant)	報告する会計期間(前期又は当期)の期末日 YYYY-MM-DD 形式 ※時点 (instant) において期首日を意味する場合、 前会計期間の期末日を入力します。

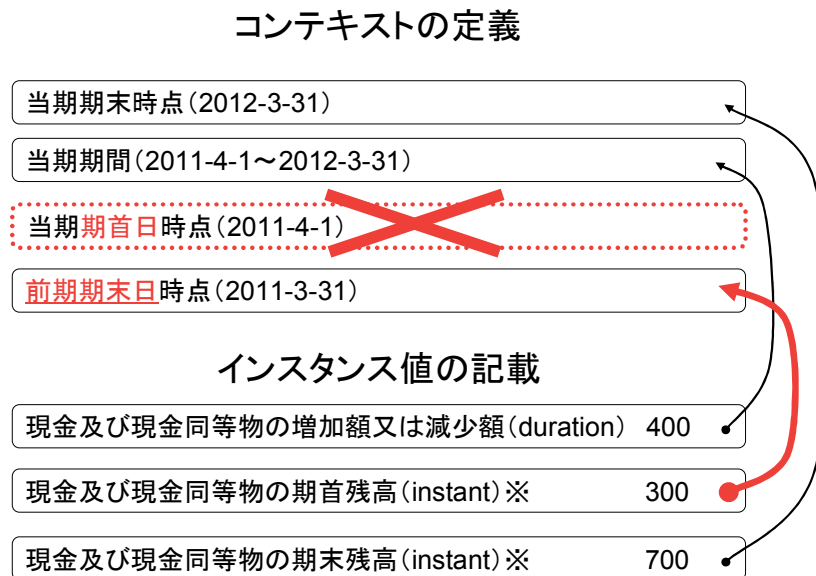
#### 注意 期間時点 (period) 要素を設定する場合の注意点

コンテキストの期間時点 (period) 要素を設定する場合、DEI に記載する当会計期間開始日及び終了日、当事業年度の決算日、比較対象会計期間開始日及び終了日、前事業年度の決算日と、定義するコンテキストの期間時点 (period) 要素の値とが一致するようにします。

#### 5-4-4-1 期首日開始時点のコンテキストの作成

報告書インスタンス上では、期首日開始時点の意味するコンテキストを作成しません。期首日開始時点の残高を報告する際には、前期の期末日時点のコンテキストを用いて報告します。

図表 5-4-9 期首日開始時点のコンテキストの作成



※タクソノミにおける要素は同一です。

「図表 5-4-9 期首日開始時点のコンテキストの作成」のように、当期の期首日開始時点の意味するコンテキストは作成せず、前期の期末日終了時点のコンテキストを作成し、インスタンス値の記載部分から参照します。

#### 5-4-4-2 決算期を変更した場合の設定

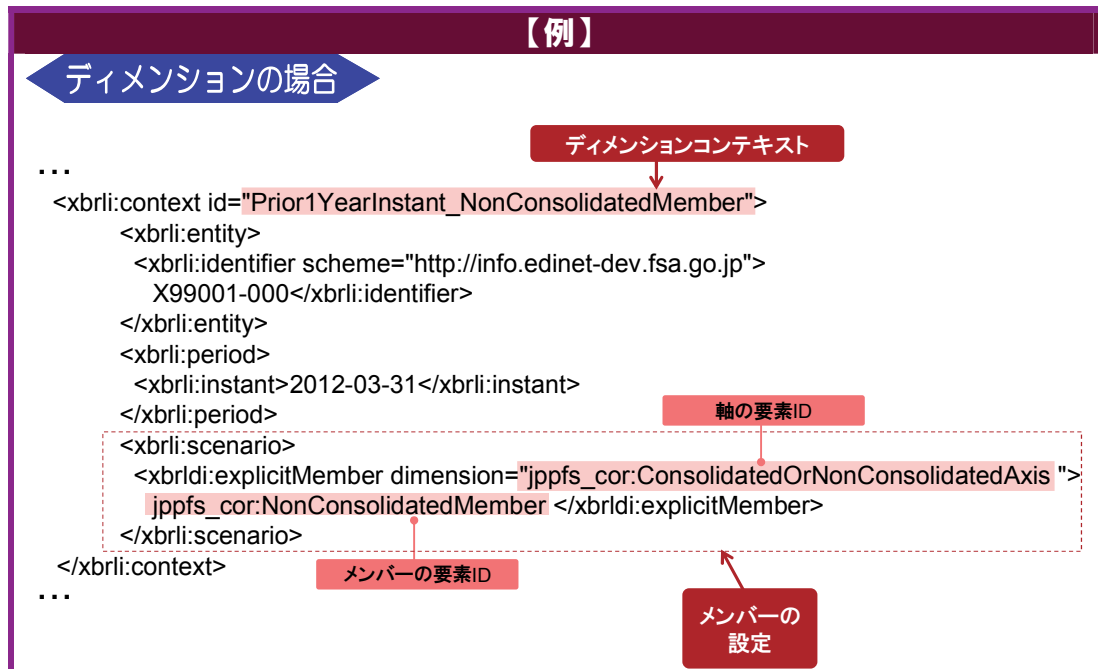
決算期の変更を行った場合、コンテキストに、変更後の決算期の「期首日 (startDate)」「期末日 (endDate)」及び「時点 (instant)」を設定します。

## 5-4-5 シナリオ要素の設定

ディメンションを使用し、表示項目にメンバーごとの値を入力する場合、ディメンションコンテキストを使用します。

ディメンションコンテキストを設定する場合、同コンテキストのシナリオ要素にメンバーを設定します。設定例は、次の「図表 5-4-10 シナリオ要素の設定例」のとおりです。

図表 5-4-10 シナリオ要素の設定例



図表 5-4-11 コンテキストのシナリオ(scenario)要素の設定

No	項目	設定値	説明
1	ディメンション	{名前空間プレフィックス}:{ディメンション要素名}	ディメンションを表します。
2	メンバー	{名前空間プレフィックス}:{メンバー要素名}	メンバーを表します。

※設定値の{名前空間プレフィックス}は、EDINET タクソノミ(語彙スキーマ)の名前空間プレフィックスのことです。

**注意** 表示項目にデフォルトのメンバー要素に対応する値を入力する場合

次の設定は行いません。

- ・ディメンションコンテキストの設定
- ・シナリオ要素へのデフォルトメンバーの要素を設定

### 5-4-5-1 連結又は個別を表すシナリオ要素の設定

連結財務諸表を表す場合、シナリオ要素の設定は必要ありません。  
 個別の財務諸表を表す場合は、ディメンションコンテキストを設定します。  
 詳細は、次の「5-4-6 コンテキストの設定例」を参照してください。

## 5-4-6 コンテキストの設定例

### → 提出日時点

コンテキスト ID	FilingDateInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	提出日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	DEI、表紙、包括タグ(様式ツリーの「経理の状況」を除く。)、監査報告書等のコンテキストとして利用します。	

### → 当期連結時点

コンテキスト ID	CurrentYearInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる会計年度の期末日時点における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当期連結期間

コンテキスト ID	CurrentYearDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる会計年度の連結の財務情報を報告するために利用します。	

## → 当期個別時点

コンテキスト ID	CurrentYearInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる会計年度の期末日時点における個別の財務情報を報告するために利用します。	

## → 当期個別期間

コンテキスト ID	CurrentYearDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる会計年度の個別の財務情報を報告するために利用します。	

## → 前期連結時点

コンテキスト ID	Prior1YearInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる会計年度の前期の期末日時点 (又は当期の期首日時点) の連結の財務情報を報告するために利用します。	



### → 前期連結期間

コンテキスト ID	Prior1YearDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる会計年度の前期の期間における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前期個別時点

コンテキスト ID	Prior1YearInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<pre>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="   jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt;   jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</pre>	
説明	報告対象となる会計年度の前期の期末日時点(又は当期の期首日時点)の個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前期個別期間

コンテキスト ID	Prior1YearDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<pre>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="   jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt;   jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</pre>	
説明	報告対象となる会計年度の前期の期間における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当四半期会計期間連結時点

コンテキスト ID	CurrentQuarterInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる当四半期会計期間の期末日時点における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当四半期会計期間連結期間

コンテキスト ID	CurrentQuarterDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる当四半期会計期間の期間における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当四半期累計期間連結期間

コンテキスト ID	CurrentYTDDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる当四半期累計期間の期間における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当四半期会計期間個別時点

コンテキスト ID	CurrentQuarterInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる当四半期会計期間の期末日時点における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当四半期会計期間個別期間

コンテキスト ID	CurrentQuarterDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる当四半期会計期間の期間における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当四半期累計期間個別期間

コンテキスト ID	CurrentYTDDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる当四半期累計期間の期間における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度同四半期会計期間連結時点

コンテキスト ID	Prior1QuarterInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる四半期会計期間の前期の期末日時点における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度同四半期会計期間連結期間

コンテキスト ID	Prior1QuarterDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる四半期会計期間の前期の期間における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度前四半期会計期間連結時点

コンテキスト ID	Prior1LastQuarterInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度前四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる四半期会計期間の前期の期首日時点における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度同四半期累計期間連結期間

コンテキスト ID	Prior1YTDDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる四半期累計期間の前期の期間における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度同四半期会計期間個別時点

コンテキスト ID	Prior1QuarterInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt;  jppfs_cor:NonConsolidatedMember  &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる四半期会計期間の前期の期末日時点における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度同四半期会計期間個別期間

コンテキスト ID	Prior1QuarterDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期会計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt;  jppfs_cor:NonConsolidatedMember  &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる四半期会計期間の前期の期間における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度前四半期会計期間個別時点

コンテキスト ID	Prior1LastQuarterInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前年度前四半期会計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる四半期会計期間の前期の期首日時点における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前年度同四半期累計期間個別期間

コンテキスト ID	Prior1YTDDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前年度同四半期累計期間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前年度同四半期累計期間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる四半期累計期間の前期の期間における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当中間期連結時点

コンテキスト ID	InterimInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる中間会計期間の期末日時点における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当中間期連結期間

コンテキスト ID	InterimDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる中間会計期間の連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当中間期個別時点

コンテキスト ID	InterimInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt;  jppfs_cor:NonConsolidatedMember  &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる中間会計期間の期末日時点における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 当中間期個別期間

コンテキスト ID	InterimDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	当中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	当中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt;  jppfs_cor:NonConsolidatedMember  &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる中間会計期間の個別の財務情報を報告するために利用します。	

## → 前中間期連結時点

コンテキスト ID	Prior1InterimInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる中間会計期間の前期の期末日時点における連結の財務情報を報告するために利用します。	

## → 前中間期連結期間

コンテキスト ID	Prior1InterimDuration	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる中間会計期間の前期の期間における連結の財務情報を報告するために利用します。	

## → 前中間期個別時点

コンテキスト ID	Prior1InterimInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"> jppfs_cor:NonConsolidatedMember </xbrldi:explicitMember>	
説明	報告対象となる中間会計期間の前期の期末日時点における個別の財務情報を報告するために利用します。	



### → 前中間期個別期間

コンテキスト ID	Prior1InterimDuration_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	前中間期首日 (YYYY-MM-DD 形式)
	endDate	前中間期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
	instant	設定なし
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる中間会計期間の前期の期間における個別の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前々期連結時点

コンテキスト ID	Prior2YearInstant	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前々年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	設定なし	
説明	報告対象となる前年度又は前中間期の期首日時点における連結の財務情報を報告するために利用します。	

### → 前々期個別時点

コンテキスト ID	Prior2YearInstant_NonConsolidatedMember	
entity	scheme	http://info.edinet-dev.fsa.go.jp
	identifier	{EDINET コード}-{追番}
	segment	設定なし
period	startDate	設定なし
	endDate	設定なし
	instant	前々年度期末日 (YYYY-MM-DD 形式)
scenario	<code>&lt;xbrldi:explicitMember dimension="jppfs_cor:ConsolidatedAndNonConsolidatedAxis"&gt; jppfs_cor:NonConsolidatedMember &lt;/xbrldi:explicitMember&gt;</code>	
説明	報告対象となる前年度又は前中間期の期首日時点における個別の財務情報を報告するために利用します。	

## 5-5 ユニットの定義

ユニットの定義について説明します。

### 5-5-1 ユニットの設定

開示書類等提出者は提出する財務諸表の勘定科目の金額を表現するため、報告書インスタンスにユニットを設定します。ユニットに設定する値は id 属性（以下「**ユニット ID**」という。）と measure 要素です。

勘定科目の金額を日本円で記載する場合、日本円を意味する「JPY」をユニット ID に設定し、同様に日本円を意味する「iso4217:JPY」を measure 要素に設定します。

なお、インスタンス値から参照されないユニットは報告書インスタンスには設定しません。また、次の「**図表 5-5-1 日本円のユニット**」から「**図表 5-5-5 1株当たりの金額**」までのユニットに適切なものがない場合、XBRL インターナショナルの規定する Units Registry に登録されているもののうち、適切なものを利用できます。Units Registry は、XBRL インターナショナルによって公開されています。詳細は、XBRL インターナショナル (<http://www.xbrl.org/utr/utr.xml>) を参照してください。

ユニット ID の設定値の詳細は、次の「**図表 5-5-1 日本円のユニット**」から「**図表 5-5-5 1株当たりの金額**」までのとおりです。

図表 5-5-1 日本円のユニット

ユニット ID	JPY
measure	iso4217:JPY*
対応するデータ型	monetaryItemType
説明	日本円の金額の単位として利用します。

※ iso4217 の名前空間 URI は、“<http://www.xbrl.org/2003/iso4217>”です。

図表 5-5-2 その他の通貨

ユニット ID	{iso4217 に規定される英語 3 文字} *
measure	iso4217:{iso4217 に規定される英語 3 文字} 記載例: iso4217:USD
対応するデータ型	monetaryItemType
説明	日本円以外の金額に利用します。

※ Units Registry に登録されているものに限りません。

図表 5-5-3 純粋型

ユニット ID	pure
measure	xbri:pure
対応するデータ型	pureItemType percentItemType decimalItemType nonNegativeIntegerItemType
説明	割合(%)、整数、小数及び人数に利用します。

図表 5-5-4 株式数

ユニット ID	shares
measure	xbri:shares
対応するデータ型	sharesItemType
説明	株式数に利用します。

図表 5-5-5 1株当たりの金額

ユニット ID	JPYPerShares
measure	iso4217:JPY / xbri:shares ※
対応するデータ型	perShareItemType
説明	1株当たりの金額に利用します。

※ その他の通貨を使用する場合は、JPYを「図表 5-5-2 その他の通貨」の設定に合わせて変更します。

### ◎ポイント 分母及び分子を用いたユニットを設定する場合

分母、分子を用いたユニットを設定する場合は、divide 要素、unitNumerator 要素及び unitDenominator 要素を用います。具体例は、次の「図表 5-5-6 分母及び分子を用いる場合の設定例」のとおりです。

図表 5-5-6 分母及び分子を用いる場合の設定例

#### 【分母及び分子を用いる場合の設定例】

##### 1株当たりの円を表す場合

```
<xbri:unit id="JPYPerShares">
  <xbri:divide>
    <xbri:unitNumerator>
      <xbri:measure>iso4217:JPY</xbri:measure>
    </xbri:unitNumerator>
    <xbri:unitDenominator>
      <xbri:measure>xbri:shares</xbri:measure>
    </xbri:unitDenominator>
  </xbri:divide>
</xbri:unit>
```

## 5-5-2 参照するユニットの設定

入力した値が参照するユニットを設定します。ユニットの参照は「unitRef 属性」を使用します。

参照するユニットの設定例は、次の「図表 5-5-7 参照するユニットの設定例」とおりです。

図表 5-5-7 参照するユニットの設定例

**【参照するユニットの設定例】**

参照元となるユニットの定義

```
<xbkli:unit id="JPY">
  <xbkli:measure>iso4217:JPY</xbkli:measure>
</xbkli:unit>
...
```

定義されたユニットを参照する設定

```
<ix:nonFraction contextRef="CurrentYearDuration"
format="ixt:numdotdecimal" name="jppfs_cor:OrdinaryIncome"
unitRef="JPY" decimals="-6" scale="6">111,111</ix:nonFraction>
```

**ユニットの参照**  
(ユニットIDが「JPY」を参照)

## 5-6 インライン XBRL ファイルの作成

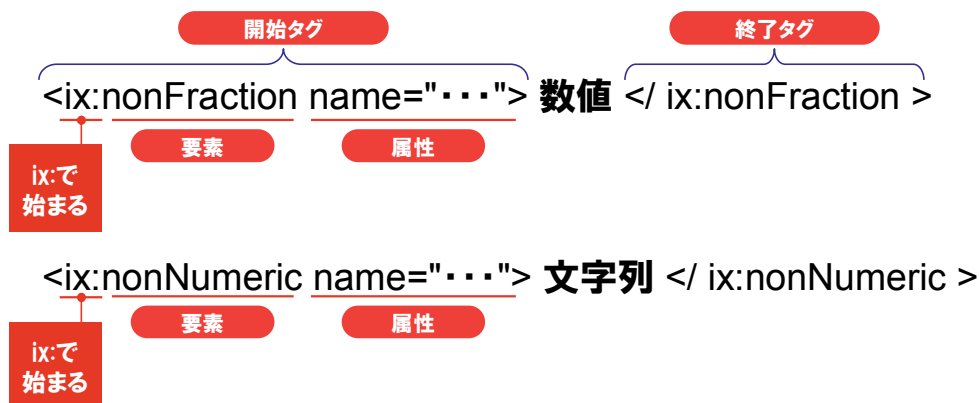
報告項目の各値や内容をインライン XBRL で記載します。インライン XBRL では XHTML で表現された内容に独自のタグを埋め込むことで、XBRL インスタンスの中で表される要素を定義します。

インライン XBRL ファイルで記載されるタグは、次の「図表 5-6-1 インライン XBRL のタグのイメージ」のようになります。

開始タグと終了タグが必要です。また開始タグには属性も指定します。属性の記載順番に規定はありません。

開始タグと終了タグの間には、値（数値、文字列、注記番号等）を入力します。

図表 5-6-1 インライン XBRL のタグのイメージ



インライン XBRL ファイルで使用する要素は、次の「図表 5-6-2 インライン XBRL で使用する要素」のとおりです。数値、数値以外、注記番号等設定する内容の種類ごとに定められた要素を指定します。

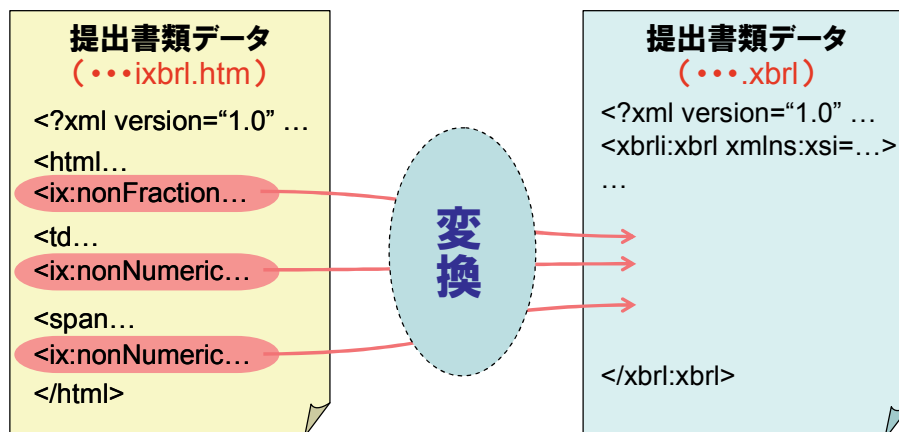
図表 5-6-2 インライン XBRL で使用する要素

要素名	説明
ix:nonFraction	金額や数値を表現する場合
ix:nonNumeric	数値以外の文字列や文章を表現する場合
ix:footnote	フットノートリンクを表現する場合
ix:header	ヘッダ情報を定義する場合
ix:hidden	表示しない値を定義する場合
ix:references	スキーマ参照及びリンクベース参照を定義する場合
ix:resources	ロールタイプ参照、アークロールタイプ参照等を定義する場合

### 注意 インライン XBRL ファイル作成時の注意

- ・インライン XBRL の科目又は表題の表示と提出者別タクソミのラベルとの整合性については、タグ付け対象の種類によってルールが異なります。詳細なルールについては、「7章 報告書インスタンスを作成する際の注意事項 7-1 表示とラベルの整合性」を参照してください。
- ・インライン XBRL の項目の表示順と、提出者別タクソミの表示リンク及びディメンションの要素の定義とは、原則として一致させます。
- ・インライン XBRL ファイルに記載された値とデータ型を基に EDINET で XBRL インスタンスファイルに変換します。データ型に合致しない値が記載されていると正しく XBRL インスタンスファイルが作成されませんので、注意が必要です。

図表 5-6-3 インライン XBRL ファイルから XBRL インスタンスファイルが作成されるイメージ

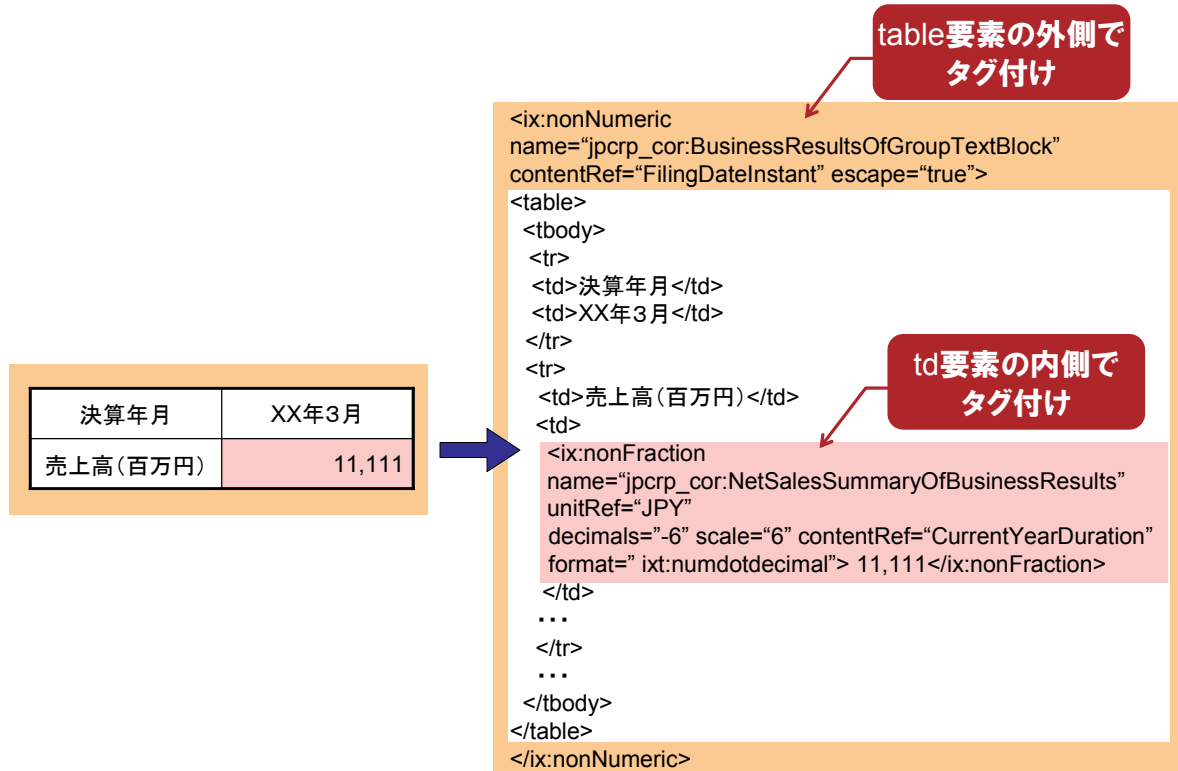


インラインXBRLファイルに含まれる「ix:」で始まる要素の値とデータ型を基に、EDINETでXBRLインスタンスファイルに変換します。

**注意** 表をタグ付けする際の注意点

表についてタグ付け可能な範囲は、table 要素の外側又は td 要素の内側のみです。  
表の列のみ又は表の行 (tr 要素) のみをタグ付けすることはできません。

図表 5-6-4 表のタグ付け設定例



## 5-6-1 インライン XBRL ファイルの規定及び禁止事項

インライン XBRL ファイルについて、次のような規定及び禁止事項があります。

### DOCTYPE 宣言の禁止

インライン XBRL ファイルでは、DOCTYPE 宣言の付与を禁止しています。XHTML1.1 では DOCTYPE 宣言を付与しますが、インライン XBRL の仕様を優先し、DOCTYPE 宣言を付与しないようにしてください。

### インスタンス値の設定に関する規約

インスタンス値を設定した要素は、提出者別タクソノミで表示リンク、定義リンク及び計算リンクが定義されている必要があります。ただし、計算リンクにおいて、期間時点区分が異なり計算リンクを設定できない場合（[参照](#)『**提出者別タクソノミ作成ガイドライン**』）及び他の要素との間に加減算関係が成り立たない場合は、この限りではありません。また、様式ツリー及びディメンションを含まない詳細ツリー（表紙等）の場合、表示リンクのみ定義する要素があります。

財務諸表本表では、インスタンス値を設定した要素が出現する表示リンク、定義リンク及び計算リンクの拡張リンクロールは、作成する財務諸表の様式に対応したものであることが必要です。したがって、同一の様式上の要素は、同一の様式の表示リンク及び計算リンクの拡張リンクロールに出現することが必要です。

同一の要素、コンテキスト及びユニットを用いるべき同一の値が詳細タグ付け対象範囲に複数回現れる場合、出現箇所の全てにおいてタグ付けします。

インライン XBRL において、同一コンテキスト及びユニットが設定された要素による、異なる値のタグ付けは禁止します。例えば、次の「**図表 5-6-5 認められないインスタンス値の例**」のように同一の要素、コンテキスト及びユニットで、「303,080」及び「450,030」という二つの異なる値をタグ付けすることはできません。

図表 5-6-5 認められないインスタンス値の例

#### 【例】


```
<p>
<ix:nonFraction name="jpcrp_cor:NetSalesSummaryOfBusinessResults"
contextRef="Prior2YearDuration" unitRef="JPY" decimals="-6" scale="6"
format="ixt:numdotdecimal">303,080</ix:nonFraction>
</p>
...
<p>
<ix:nonFraction name="jpcrp_cor:NetSalesSummaryOfBusinessResults"
contextRef="Prior2YearDuration" unitRef="JPY" decimals="-6" scale="6"
format="ixt:numdotdecimal">450,030</ix:nonFraction>
</p>
...
同一の要素に同一のコンテキストとユニットは設定しない
```

**同一要素**

## 5-6-2 数値を表現する要素

数値を表現する「ix:nonFraction 要素」について説明します。

図表 5-6-6 ix:nonFraction 要素

要素名		ix:nonFraction																	
		設定値	説明																
属性	name	英数字	報告項目となる要素名を指定																
	contextRef	ID	コンテキスト ID の参照を指定																
	unitRef	ID	単位情報の参照を指定																
	decimals	数字	数値の精度。報告する単位に合わせて指定 <table border="1" data-bbox="790 645 1289 1003"> <thead> <tr> <th>表示単位</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>百万円、百万株</td> <td>-6</td> </tr> <tr> <td>千円、千株</td> <td>-3</td> </tr> <tr> <td>株、円</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>X.XX 株、X.XX 円、X%</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>X.XXX 株、X.XXX 円、X.X%</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>X.XXXX 株、X.XXXX 円、X.XX%</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>X.XXX%</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※外国会社等が同一の財務諸表内に外貨建ての金額と円貨建ての金額を併記する場合には、通貨ごとに異なる decimals 属性の値が設定されることがあります。</p>	表示単位	属性値	百万円、百万株	-6	千円、千株	-3	株、円	0	X.XX 株、X.XX 円、X%	2	X.XXX 株、X.XXX 円、X.X%	3	X.XXXX 株、X.XXXX 円、X.XX%	4	X.XXX%	5
	表示単位	属性値																	
	百万円、百万株	-6																	
	千円、千株	-3																	
	株、円	0																	
	X.XX 株、X.XX 円、X%	2																	
	X.XXX 株、X.XXX 円、X.X%	3																	
X.XXXX 株、X.XXXX 円、X.XX%	4																		
X.XXX%	5																		
scale	数字	数値の表示単位を指定 <table border="1" data-bbox="869 1137 1204 1317"> <thead> <tr> <th>表示単位</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%単位</td> <td>-2</td> </tr> <tr> <td>円単位</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>千円単位</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>百万円単位</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	表示単位	属性値	%単位	-2	円単位	0	千円単位	3	百万円単位	6							
表示単位	属性値																		
%単位	-2																		
円単位	0																		
千円単位	3																		
百万円単位	6																		
format	英数字	数値の表記に合わせた Transformation Rule の名前を設定する場合に指定  参照 「5-6-4 Transformation Rule について」 例 数値をカンマ区切りで表示する場合、「ixt:numdotdecimal」を指定																	
sign	-(マイナス)	値が負の場合に指定 ※表示上は正の値、実際は負の値である場合も指定																	
nil	true	「-(バー)」を nil 値と解釈する場合に指定																	
footnoteRefs	ID	注釈がある場合にフットノートリンクの参照を指定																	



### 5-6-2-1 金額の入力及び設定

金額の入力及び設定について説明します。

次の「図表 5-6-7 金額の設定例」のように、ある表のセルに、純利益として「-1234 万 5 千円」の値が千円単位で記載されていた場合、金額の精度は、報告する単位に合わせて decimals 属性及び scale 属性を指定します。

図表 5-6-7 金額の設定例

	金額(千円)	このセルの定義
当期純利益	△ 12,345	

...

<td> **タグ外で負の値を表す記号** △<ix:nonFraction name="jpcrp\_cor:NetIncome" **要素名**  
contextRef="CurrentYearDuration" **コンテキストIDの参照**  
unitRef="JPY" **ユニットIDの参照**  
decimals="-3" scale="3"  
format="ixt:numdotdecimal" sign="-">12,345</ix:nonFraction>  
</td>

↓

decimals="-3" scale="3" format="ixt:numdotdecimal" sign="-"			
数値の精度	数値の表示単位 (千円単位)	カンマ区切り文字を表示	負の数値 で表示

#### ◎ポイント 表示単位を指定した数値について

表示単位を百万円、百万株、千円又は千株の単位で指定した数値は、EDINET でインライン XBRL ファイルから XBRL インスタンスファイルへ変換される際に、指定された表示単位未満に 0 が設定されます。例えば、「図表 5-6-7」のように decimals 属性及び scale 属性を指定した場合、次の「図表 5-6-8 表示単位を千円単位で指定した数値(イメージ)」のように、千円未満に 0 が設定されます。

図表 5-6-8 表示単位を千円単位で指定した数値(イメージ)

ブラウザ等での表示	→	XBRL インスタンスファイル
△12,345		-12345000

#### ◎ポイント 値が小数点を含む場合

一株当たりの利益等、値が小数点を含む場合、decimals 属性及び scale 属性は、次の「図表 5-6-9 値が小数点を含む場合の設定例」のようになります。

図表 5-6-9 値が小数点を含む場合の設定例

値 (単位:百万円)	属性	
	decimals	scale
1234	-6	6
1234.5	-5	6
1234.56	-4	6

## ◎ポイント 負の値を意味する記号の記載

負の値を意味する、マイナス記号、括弧、△等はインライン XBRL タグの外に記載します。

### 5-6-2-2 キャッシュ・フロー計算書の勘定科目の設定方法

キャッシュ・フロー計算書において特有の要素（勘定科目）について、タクソノミの貸借 (balance) 区分は「設定なし」です。要素の値の正負はキャッシュ・フロー計算書上のキャッシュに対してプラスの影響があるのか、マイナスの影響があるのかで判断されます。

キャッシュに対してプラスの影響があるものについては正の値で記載し、キャッシュに対してマイナスの項目については負の値で記載します。

### 5-6-2-3 値を設定しない場合

財務諸表内の勘定科目に対して、値を設定しない状態を意味する「-(バー)」を表現するには、次の「**図表 5-6-10 値を設定しない状態「-」の設定例**」のように、インライン XBRL に記載された「-(バー)」を囲む ix:nonFraction 要素の xsi:nil 属性を「true」と指定します。

 **参照** 「5-6-4 Transformation Rule について」

**図表 5-6-10 値を設定しない状態「-」の設定例**

```
<p><ix:nonFraction
name="jpcrp_cor:ComprehensiveIncomeSummaryOfBusinessResults"
contextRef="CurrentYearDuration" unitRef="JPY" xsi:nil="true" />-</p>
```

xsi:nil属性を設定

### 5-6-2-4 「△0(マイナスゼロ)」の設定

財務諸表内の勘定科目に対して、「△0(マイナスゼロ)」を表現するには報告書インスタンスでは、当該勘定科目の要素値に「-0」を設定します。

**図表 5-6-11 △0(マイナスゼロ)の設定例**

 このセルの定義

```
<td class="value">
<div class="numeric">
<span>△<ix:nonFraction name="jppfs_cor:LossOnDisasterEL"
contextRef="Prior1YearDuration_NonConsolidatedMember" unitRef="JPY"
decimals="-6" scale="6" sign="-" format="ixt:numdotdecimal">0</ix:nonFraction>
</span>
</div>
</td>
```

sign属性を設定

### 5-6-2-5 比率の入力

比率の入力について説明します。

網掛けのされているセルの定義をインライン XBRL で定義した場合の例は、次の「**図表 5-6-12 比率の設定例**」のとおりです。表示桁数未満の取扱いは、金額の入力の場合と同じで「decimals 属性」を指定します。

**図表 5-6-12 比率の設定例**

6.91% ← このセルの定義

```


...
<td>
<ix:nonFraction
name="jpcrp_cor:PriceEarningsRatioSummaryOfBusinessResults" 要素名
contextRef="CurrentYearDuration" コンテキストIDの参照
unitRef="pure" decimals="4" 数値の精度
format="ixt:numcommadot" scale="-2">6.91</ix:nonFraction>
% ← タグ外で値に付与する文字列
</td>
...

```

### 5-6-3 数値以外の値を表現する要素

数値以外の値を表現する「ix:nonNumeric 要素」について説明します。

図表 5-6-13 ix:nonNumeric 要素

要素名		ix:nonNumeric	
属性		設定値	説明
	name	英数字	報告項目となる要素名を指定
	contextRef	ID	コンテキスト ID の参照を指定
	escape	true	値が構造的な意味を持ち、XHTML のタグを含む場合に指定 ※要素の type 属性が textBlockItemType の要素について適用
		false	値が構造的な意味を持つが、XHTML のタグを含まない場合(任意)に指定 ※type 属性が stringItemType の要素について適用
	format	英数字	変換した値を実際の値とする場合、その表記に合わせた Transformation Rule の名前を指定  参照 「5-6-4 Transformation Rule について」
nil	true	nil 値と解釈する場合に指定	

#### ◎ポイント 子要素の指定

ix:nonNumeric 要素の中に、更に別の ix:nonFraction 要素や ix:nonNumeric 要素を入れることができます。


#### ◎ポイント escape 属性の指定

要素の type 属性の値が「textBlockItemType」の場合は、XHTML タグを含めて記載することができます。ただし、使用できない XHTML タグがあります。詳細は、「5-1 XHTML 要素について」を参照してください。

また、textBlockItemType と stringItemType は、どちらも任意の文字列を設定可能なデータ型です。どちらの ItemType も、技術的には同じように用いることが可能ですが、EDINET では次のルールを設けています。

- 1) stringItemType では escape 属性の値に true を指定することを禁止します(タグの内容をインスタンス値に含めません。)
- 2) 表を含む記載事項、箇条書等、レイアウトに意味を付けたタグ付けを含む内容は、stringItemType ではなく textBlockItemType を使用します。

表紙の会社名に旧会社名を付記する例のようにレイアウトの有無が記載内容に影響しない場合は stringItemType を使用します。

参照 「7章 報告書インスタンスを作成する際の注意事項 7-8-1 表紙」

### 5-6-3-1 日付の入力

日付の入力について説明します。

次の「図表 5-6-14 日付の設定例」は、数値以外を表現するタグを用いて和暦日付の「日付:平成 24 年 9 月 7 日」をタグ付けした例です。年月日の数字は、全角又は半角のどちらでもタグ付けが可能です。日付の表示方法の定義については、「5-6-4 Transformation Rule について」を参照してください。

図表 5-6-14 日付の設定例

#### 日付:平成 24 年 9 月 7 日

… タグ外で値に付与する文字列

日付:

```
<ix:nonNumeric name="jpcrp_cor:FilingDateCoverPage" 要素名
contextRef="FilingDateInstant" コンテキストIDの参照
format="ixt:dateerayearmonthdayjp">平成24年9月7日</ix:nonNumeric>
```

… 日付の表示方法の定義

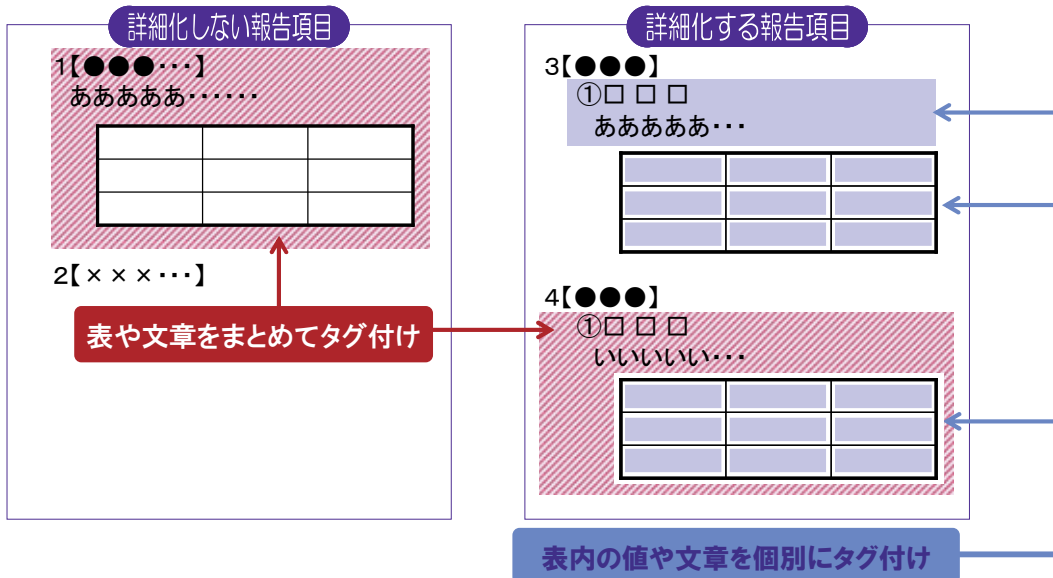
### 5-6-3-2 テキストブロック

テキストブロックの設定について説明します。

提出書類の内容は、「詳細化する報告項目」と「詳細化しない報告項目」とに分かれます。「詳細化する報告項目」は、その内容を細かく要素で定義しなければならない報告項目を表しますが、「詳細化しない報告項目」は細かく定義をしない報告項目を表します。いずれの場合も、表や文章をタグ付けするにはデータ型が「textBlockItemType」のテキストブロックを利用できます。

テキストブロック要素が設定された箇所は、その要素内に表された内容を一つのまとまった情報とみなします。

図表 5-6-15 テキストブロックの定義(イメージ)



テキストブロック要素が設定された箇所は、表題を含めてタグ付けすることを原則とします。

ただし、次の場合は、表題を含めずテキストブロックによるタグ付けができません。

- ・表題がない記載事項
- ・表題があっても、テキストブロックとの1対1関係がない場合
  - ※一つの表題に複数の情報を含む場合で、一つのタグがタイトルを含むことができても、その他のタグが表題を含むことができない場合は、全てのタグで表題を含めないタグ付けをします。
- ・技術的に困難な場合

テキストブロック要素は、要素名の末尾に「TextBlock」と設定されています。該当する要素に値（文、表、図等）を記載します。

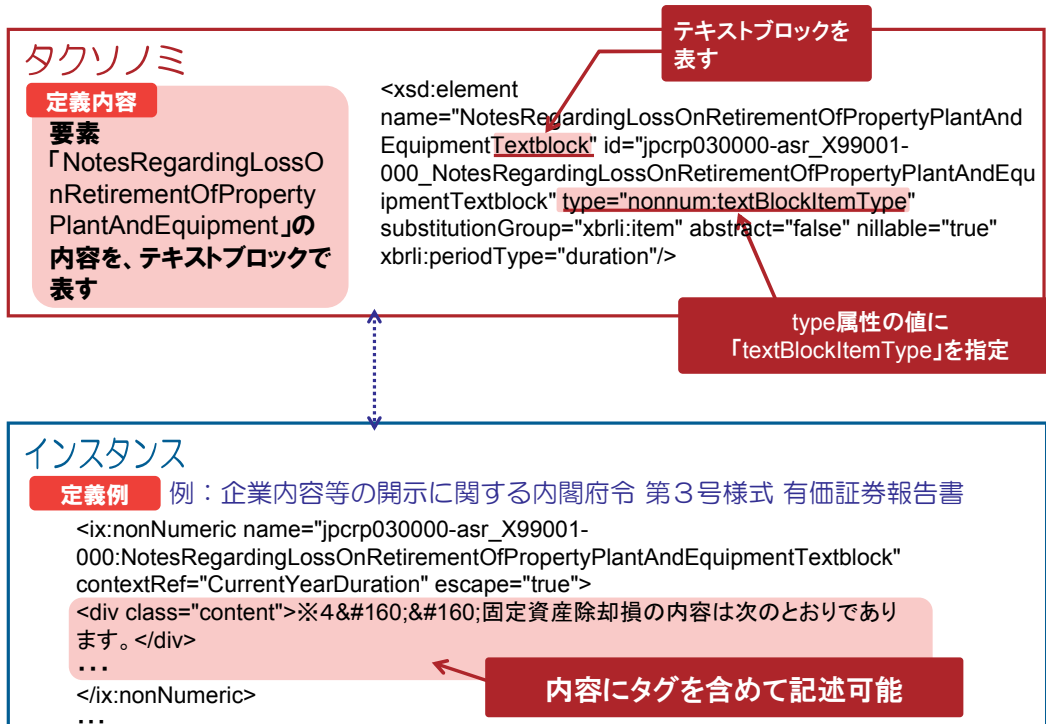
図表 5-6-16 テキストブロックを定義できる要素のイメージ

## 要素名 **TextBlock**

テキストブロックを表す

テキストブロックとする要素には、「type 属性」の値として「textBlockItem Type」が指定され、その要素の値は一括りの情報とみなされ、処理されます。テキストブロックの設定例は、「図表 5-6-17 テキストブロックの設定例」のとおりです。

図表 5-6-17 テキストブロックの設定例



「textBlockItemType」が指定された要素の内容は、XHTML タグを含めて記載できます。画像ファイルを指定する場合は、img 要素を値として記載します。なお、使用できない XHTML タグがあります。詳細は、「5-1 XHTML 要素について」を参照してください。

また、詳細ツリーのテキストブロックについては、原則として当会計期間及び比較対象会計期間の両方の記載を当会計期間のコンテキスト ID でタグ付けします。

可能な場合には、当会計期間と比較対象会計期間のそれぞれの記載をそれぞれのコンテキスト ID でタグ付けすることも可能です。次の「**図表 5-6-18 当会計期間及び比較対象会計期間の記載がそれぞれタグ付けできる場合の例**」は、当会計期間と比較対象会計期間のコンテキスト ID でそれぞれタグ付けできる事例を表しています。

**図表 5-6-18 当会計期間及び比較対象会計期間の記載がそれぞれタグ付けできる場合の例**

(株主資本等変動計算書関係)				
前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)				
自己株式の種類及び株式数に関する事項				
比較対象会計期間のコンテキスト ID でタグ付け	当事業年度期首 株式数 (千株)	当事業年度増加 株式数 (千株)	当事業年度減少 株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
	8,888	8,888	—	8,888
合計	8,888	8,888	—	8,888
(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加888千株は、……………				
当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)				
自己株式の種類及び株式数に関する事項				
当会計期間のコンテキスト ID でタグ付け	当事業年度期首 株式数 (千株)	当事業年度増加 株式数 (千株)	当事業年度減少 株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
	8,888	8,888	8,888	8,888
合計	8,888	8,888	8,888	8,888
(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加888千株は、……………				

### 5-6-3-3 文字列に XHTML タグを含める場合の設定

テキストブロックを表現する例です。値に XHTML タグが含まれている場合の例は、次の「**図表 5-6-19 値に XHTML タグを含む場合の設定例**」のとおりです。

**図表 5-6-19 値に XHTML タグを含む場合の設定例**

```
<ix:nonNumeric
name="jpcrp_cor:NotesSegmentInformationEtcSemiAnnual
ConsolidatedFinancialStatementsTextBlock"
contextRef="CurrentYearDuration"
escape="true">
  <ul>
    <li>AAA</li>
    <li>BBB</li>
    <li>CCC</li>
  </ul>
</ix:nonNumeric>
```

要素名

コンテキストIDの参照

値が構造的意味を含んでいるため escape属性を指定

値



### 5-6-3-4 該当なしタグ

提出書類の目次の中で当該目次の記載項目に該当がないため、次の「**図表 5-6-20 該当なしのイメージ**」のように該当事項がない旨を記載することがあります。この場合、該当ある場合に用いる要素ではなく、該当なし要素を用いてタグ付けします。

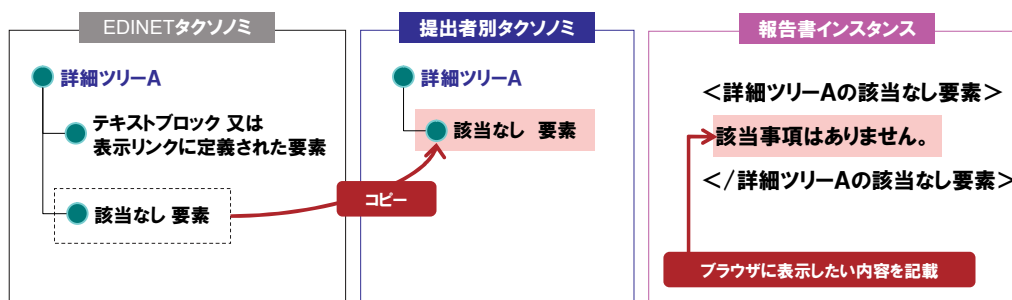
該当なし要素は、標準ラベル及び冗長ラベルの末尾が「…(該当なし)」(英語ラベルでは「…(N/A)」)となっています。提出者別タクソノミを再構成(リキャスト)する際には、語彙スキーマから利用する該当なし要素を選択し、様式ツリー又は詳細ツリーに定義します。

報告書インスタンスでは、当該要素の内容として該当事項がない旨の文字列を該当なしタグでタグ付けします。

図表 5-6-20 該当なしのイメージ

<p>【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】 前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日) 該当事項はありません。</p>
--

図表 5-6-21 該当なしの設定イメージ





## 5-6-4 Transformation Rule について

Transformation Rule は、XHTML 上の表記を XBRL インスタンスの値として許可されている形式に変換するためのルールで、数値と日付に関するルールが規定されています。

主なルールの例は、次の「図表 5-6-22 主なルールの一覧」のとおりです。

図表 5-6-22 主なルールの一覧

No	フォーマットコード	説明
1	dateerayearmonthdayjp	日本の元号 YY 年 MM 月 DD 日を表します。
2	dateerayearmonthjp	日本の元号 YY 年 MM 月を表します。
3	dateyearmonthdaycjk	YYYY 年 MM 月 DD 日を表します。
4	dateyearmonthcjk	YYYY 年 MM 月を表します。
5	nocontent	空の内容を表します。フラグの用途で使用しません。
6	numdotdecimal	「nnn*nnn*nnn.n」小数を表します。
7	numunitdecimal	「nnn*nnn Unit nn (Unit)」1 株当たりの金額を表します。

### ◎ポイント その他の Transformation Rule

その他の Transformation Rule は、『Inline XBRL Transformation Rule Registry 2』(<http://www.xbrl.org/Specification/inlineXBRL-transformationRegistry/PR-2011-07-06/inlineXBRL-transformationRegistry-PR-2011-07-06.zip>)にあるとおりです。今後、このルールは拡張される予定です。

## 5-6-5 注記番号(フットノートリンク)の設定

報告書インスタンス中で注記番号を表現する場合、フットノートリンクを使用します。フットノートリンクで設定する内容は、次の「[図表 5-6-23 ix:footnote 要素](#)」のとおりです。なお、フットノートリンクは財務諸表本表の値に対してのみ使用します。

図表 5-6-23 ix:footnote 要素

要素名		ix:footnote	
属性		設定値	説明
	footnoteID	英数字	各注記番号で一意となる値を指定します。
	footnoteLinkRole	roleURI	フットノートリンクの拡張リンクロールを指定します。 ※拡張リンクロールの一覧は、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン 添付 3 拡張リンクロール一覧』を参照してください。
	footnoteRole	英数字	フットノートリンクのリソースロールを指定します。  <a href="#">「図表 5-6-24 footnoteRole の設定値」</a>
	xml:lang	英字	フットノートリンクの言語(例: 日本語の場合「ja」)
	arcrole	fact-footnote	フットノートリンクと値とのアークに指定されているアークロールを指定します。 ※fact-explanatoryFact は使用しません。

図表 5-6-24 footnoteRole の設定値

No	設定値	説明
1	NotesNumber	注記番号を表します。
2	NotesNumberPeriodStart	期首のみの注記番号を表します。
3	NotesNumberPeriodEnd	期末のみの注記番号を表します。

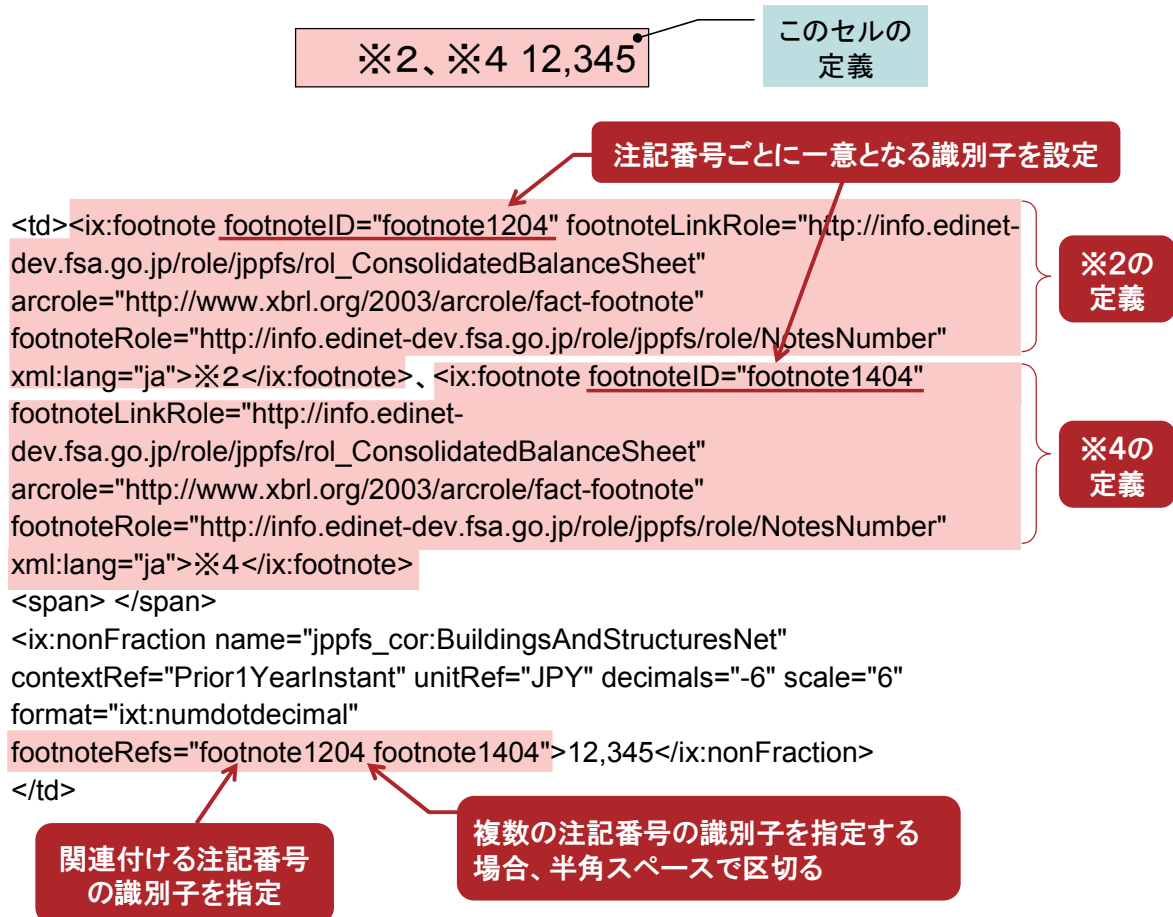
### 注意

- ・フットノートリンクでは、order 属性は設定できません。
- ・フットノートが定義される財務諸表の拡張リンクロールを「リソース要素 (ix:resources) 内に定義する必要があります。定義の方法は、「[5-6-8 ロールタイプ参照](#)、[アークロールタイプ参照](#)、[コンテキスト](#)、[単位の定義](#)」を参照してください。

### 5-6-5-1 フットノートリンクの定義と参照

次の表の網掛けされているセルに設定されている「※2」、「※4」及び値の定義をインライン XBRL で定義した場合の例は、次の「**図表 5-6-25 フットノートリンクの設定例**」のとおりです。定義されたフットノートリンクを参照する場合は「**footnoteRefs 属性**」を利用し、関連付けるフットノートリンクの ID 番号を設定します。

図表 5-6-25 フットノートリンクの設定例



## ◎ポイント フットノートリンクの設定

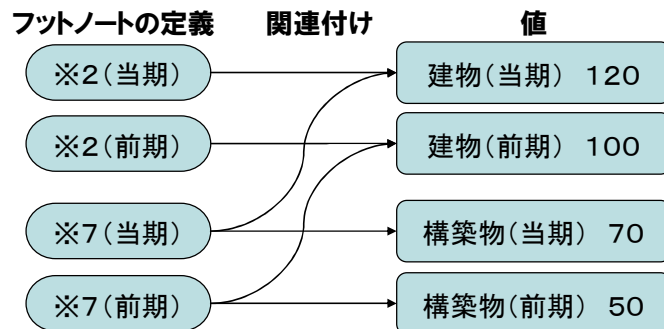
前期及び当期にフットノートリンクを設定する場合、次の「図表 5-6-26 フットノートリンクの設定イメージ」のように、前期及び当期で別々にフットノートリンクを定義し、関連付けします。

図表 5-6-26 フットノートリンクの設定イメージ

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
有形固定資産		
建物	※2, ※7 100	※2, ※7 120
減価償却累計額	...	...
構築物	※7 50	※7 70
減価償却累計額	...	...

### フットノートリンクのイメージ

- ・ 前期当期別にフットノートを定義
- ・ ※2と※7はフットノートを分ける  
(「※2, ※7」で一つとしない)
- ・ 注記番号のみを記載  
(「, 」を含めない)

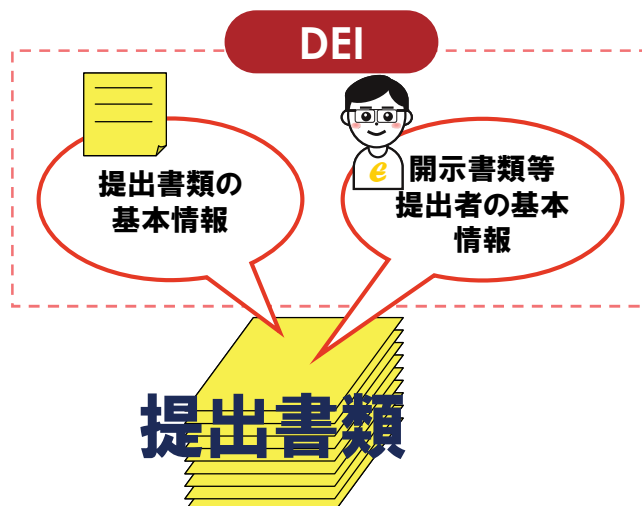


## 5-6-6 DEI の記載

DEI は、「Document and Entity Information」の略で、提出書類の基本情報（Document Information）と開示書類等提出者の基本情報（Entity Information）が格納されているファイルです。

利用者は、この DEI を確認することで、提出書類の基本情報を確認し、インスタンス情報に容易にアクセスできるようになります。

図表 5-6-27 DEI の構成イメージ



DEI の内容は、次の「図表 5-6-28 DEI の設定例」のような内容が含まれます。各項目については、開示書類等提出者が提出する書類に合わせて内容を記載する必要があります。また、開示書類等提出者は、EDINET に登録されている開示書類等提出者情報と同じ内容を記載する必要があります。

図表 5-6-28 DEI の設定例

```

<div style="display: none">
  <ix:header>
  <ix:hidden>
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:EDINETCodeDEI"
contextRef="FilingDateInstant">X99001</ix:nonNumeric>
  ...
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:FilerNameInJapaneseDEI"
contextRef="FilingDateInstant">A株式会社</ix:nonNumeric>
  ...
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:CabinetOfficeOrdinanceDEI"
contextRef="FilingDateInstant">企業内容等の開示に関する内閣府令</ix:nonNumeric>
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:DocumentTypeDEI" contextRef="FilingDateInstant">
  第三号様式</ix:nonNumeric>
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:CurrentPeriodStartDateDEI"
contextRef="FilingDateInstant">2011-04-01</ix:nonNumeric>
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:CurrentPeriodEndDateDEI"
contextRef="FilingDateInstant">2012-03-31</ix:nonNumeric>
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:TypeOfCurrentPeriodDEI"
contextRef="FilingDateInstant">FY</ix:nonNumeric>
  <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:CurrentFiscalYearEndDateDEI"
contextRef="FilingDateInstant">2012-03-31</ix:nonNumeric>
  ...

```

} 府令名

} 様式名

DEI 要素は DEI タクソノミに定義されており、接頭辞は「jpdei\_cor」です。ただし、大量保有報告書の大量保有者と共同保有者の要素は、大量保有タクソノミ中の「大量保有報告書の追加 DEI」として定義されており、接頭辞は「jplvh\_cor」です。

DEI は、表紙ファイルの「ix:hidden 要素」内に記載します。また、DEI のコンテキスト ID は「FilingDateInstant」を利用し、期間時点（period）要素に提出日を指定します。

DEI の記載に当たっては、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン 添付 5 様式ごとの DEI の設定値対応一覧』を併せて参照してください。

なお、DEI タクソノミは、開示書類等提出者が拡張することはありません。しかし、「大量保有報告書の追加 DEI」中の大量保有者と共同保有者のメンバー要素は開示書類等提出者が個別に設定する必要があります。

また、入力任意の項目や不要な項目等について、値を入力しない場合は「nil」を設定する必要があります。

### 5-6-6-1 DEI 等の非表示情報の設定

次の情報は、非表示情報としてインライン XBRL の「ix:header 要素」に記載します。

- DEI
- 表示しない値
- スキーマ参照、リンクベース参照
- ロールタイプ参照、アークロールタイプ参照
- コンテキスト定義、ユニット定義

これらの非表示情報は、表紙ファイルに定義します。表紙ファイルをインライン XBRL で作成しない場合は、財務諸表本表一つ目のインライン XBRL ファイルに定義します。

ix:header 要素に記載する際に、子要素として「ix:hidden 要素」を使用します。記載された DEI の内容を ix:hidden 要素で囲むと、その内容はブラウザに表示されません。

ix:hidden 要素は、ix:header 要素の最初の子要素として記載します。

図表 5-6-29 ヘッダ情報の定義内容(イメージ)

<ix:header>	
<ix:hidden>・・・</ix:hidden>	表示しない値、DEI
<ix:references>・・・</ix:references>	スキーマ参照、リンクベース参照
<ix:resources>・・・</ix:resources>	ロールタイプ参照、コンテキスト、アークロールタイプ参照、単位
</ix:header>	

また、定義した非表示情報は「body 要素」内に記載します。ただし、そのまま記載するとブラウザに表示されてしまうため、「div 要素」で囲み、div 要素の属性として「style="display:none"」を指定します。

図表 5-6-30 ix:header 要素

要素名	ix:header
属性	なし

図表 5-6-31 ヘッダ情報の設定例

```
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" ...>
  <head>
    ...
  </head>
  <body>
    ...
    <div style="display:none">
      <ix:header>
        ...
      </ix:header>
    </div>
  </body>
</html>
```

ヘッダ情報がブラウザに表示されないよう div タグで囲む

図表 5-6-32 ix:hidden 要素

要素名	ix:hidden
属性	なし

図表 5-6-33 表示されない値の設定例

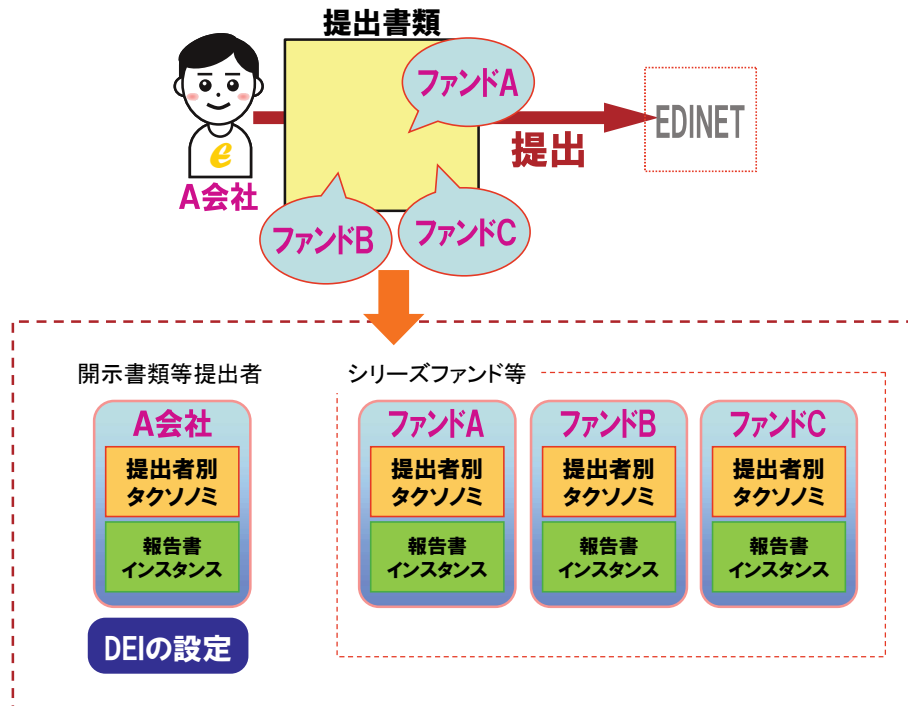
```
<ix:header>
  <ix:hidden>
    ...
    <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:FilerNameInJapaneseDEI"
      contextRef="FilingDateInstant">
      A株式会社</ix:nonNumeric>
    <ix:nonNumeric name="jpdei_cor:FilerNameInEnglishDEI"
      contextRef="FilingDateInstant">
      A Corporation</ix:nonNumeric>
    ...
  </ix:hidden>
</ix:header>
```

表示されない値の定義  
(定義方法は、値を表示する場合と同じ)

## 5-6-6-2 シリーズファンド等の場合

シリーズファンド等の場合、次の「図表 5-6-34 DEI の設定と提出者別タクソノミファイル及び報告書インスタンスファイルとの関係」のように、ファンドごとに提出者別タクソノミファイル及び報告書インスタンスファイルを作成し、それぞれ DEI を設定します。

図表 5-6-34 DEI の設定と提出者別タクソノミファイル及び報告書インスタンスファイルとの関係

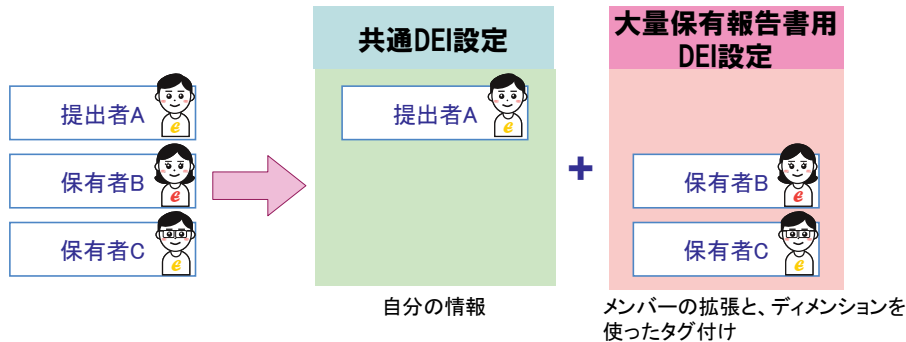




### 5-6-6-3 大量保有報告書の DEI の設定

大量保有報告書で DEI を設定する場合は、XBRL 対象の全様式共通の DEI と大量保有報告書用 DEI を作成します。例えば、提出者 A が提出する大量保有報告書において保有者 B と保有者 C が共同保有及び大量保有している場合は、共通 DEI に当該提出者 A の情報を設定し、更に大量保有報告書用 DEI に当該保有者 B 及び当該保有者 C の情報を設定します。設定の際には、大量保有報告書用 DEI でメンバーの拡張やディメンションを使用したタグ付けが必要となります。

図表 5-6-35 大量保有報告書の DEI 設定



「図表 5-6-35 大量保有報告書の DEI 設定」で仮に提出者 A も保有者であった場合には、当該提出者 A の情報は共通 DEI と大量保有報告書用 DEI の両方に設定が必要です。

### 5-6-7 スキーマ参照とリンクベース参照の定義

スキーマファイルの参照とリンクベースファイルの参照を定義する場合、「ix:references 要素」を追加します。

図表 5-6-36 ix: references 要素

要素名	ix:references
属性	なし

図表 5-6-37 スキーマ参照とリンクベース参照の設定例

```
<ix:header>
  <ix:hidden>...</ix:hidden>
  <ix:references>
    <link:schemaRef xlink:type="simple" xlink:href="jpcrp030000-asr-001_X99001-000_2012-03-31_01_2012-06-28.xsd" />
  </ix:references>
  ...
</ix:header>
```

XBRLインスタンスに含まれるスキーマ参照 (link:schemaRefタグ)、リンクベース参照 (link:linkbaseRefタグ)をそのまま記載する

## 5-6-8 ロールタイプ参照、アークロールタイプ参照、コンテキスト、単位の定義

次の内容を記載する場合、「ix: resources 要素」を追加します。

- ➡ ロールタイプ参照
- ➡ アークロールタイプ参照
- ➡ コンテキスト定義
- ➡ ユニット(単位)定義

図表 5-6-38 ix: resources 要素

要素名	ix:resources
属性	なし

図表 5-6-39 ロールタイプ参照とアークロールタイプ参照の設定例

```

<ix:header>
<ix:hidden>...</ix:hidden>
<ix:references>...</ix:references>
<ix:resources>
<link:roleRef xlink:type="simple" xlink:href="http://info.edinet-
dev.fsa.go.jp/taxonomy/jppfs/2012-06-30/jppfs_rt_2012-06-
30.xsd#rol_ConsolidatedBalanceSheet" roleURI="http://info.edinet-
dev.fsa.go.jp/role/jppfs/rol_ConsolidatedBalanceSheet" />
<link:roleRef xlink:type="simple" xlink:href="http://info.edinet-
dev.fsa.go.jp/taxonomy/jppfs/2012-06-30/jppfs_rt_2012-06-
30.xsd#rol_ConsolidatedStatementOfIncome" roleURI="http://info.edinet-
dev.fsa.go.jp/role/jppfs/rol_ConsolidatedStatementOfIncome" />
<link:roleRef xlink:type="simple" xlink:href="http://info.edinet-
dev.fsa.go.jp/taxonomy/jppfs/2012-06-30/jppfs_rt_2012-06-30.xsd#rol_BalanceSheet"
roleURI="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/role/jppfs/rol_BalanceSheet" />
...
</ix:resources>
</ix:header>

```

XBRLインスタンスに含まれるロールタイプ参照 (link:roleRefタグ)、アークロールタイプ参照 (link:arcroleRefタグ)をそのまま記載する

図表 5-6-40 コンテキストと単位の設定例

```
<ix:header>
  <ix:hidden>...</ix:hidden>
  <ix:references>...</ix:references>
  <ix:resources>
    ...
    <xbri:context id="FilingDateInstant">
      <xbri:entity>
        <xbri:identifier scheme="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp">X99001-000</xbri:identifier>
      </xbri:entity>
      <xbri:period><xbri:instant>2012-06-28</xbri:instant></xbri:period>
    </xbri:context>
    ...
    <xbri:unit id="JPY">
      <xbri:measure>iso4217:JPY</xbri:measure>
    </xbri:unit>
    <xbri:unit id="pure">
      <xbri:measure>xbri:pure</xbri:measure>
    </xbri:unit>
    ...
  </ix:resources>
</ix:header>
```

XBRLインスタンスに含まれるコンテキスト (xbri:contextタグ)、単位 (xbri:unitタグ)をそのまま記載する



# 6

## マニフェストファイルの 作成

● ..... ●  
本章では、マニフェストファイルの作成について説明します。

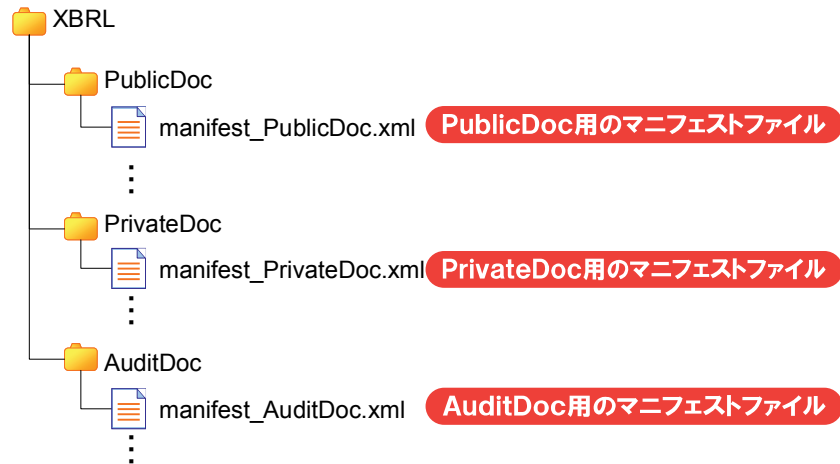
## 6-1 マニフェストファイルの作成

「提出者別タクソノミファイル」と「報告書インスタンスファイル」の作成後、最後に「マニフェストファイル」を作成します。

マニフェストファイルは、PublicDoc、PrivateDoc 等の各フォルダに格納されている提出書類ファイルの全体構成に係る情報を記載しておくファイルです。

マニフェストファイルは、「図表 6-1-1 マニフェストファイルの格納イメージ」のように提出書類ファイルの格納される各フォルダに一つ作成します。

図表 6-1-1 マニフェストファイルの格納イメージ



マニフェストファイルには、複数のインライン XBRL ファイルと XBRL インスタンスファイルとの関係付け、様式ツリーの存在場所及び複数の XBRL インスタンスファイルから報告書インスタンスが構成される場合の目次項目の差し込み定義を行います。

例えば、PublicDoc フォルダに保存されているマニフェストファイルには「提出本文書」を構成する報告書インスタンスのファイル名を記載したものを保存します。

シリーズファンド等で複数の財務諸表本表を記載する際には、マニフェストファイルを使用し、複数の報告書インスタンスを定義する必要があります。また、様式ツリーの目次項目の差し込みも併せて定義します。

## 6-2 マニフェストファイルの設定

マニフェストファイルの設定について説明します。

### 6-2-1 ファイル名

マニフェストファイルのファイル命名規約は、次の「図表 6-2-1 マニフェストファイルの命名規約」のとおりです。

図表 6-2-1 マニフェストファイルの命名規約

マニフェストファイルの命名規約	
manifest_PublicDoc.xml	
manifest_PrivateDoc.xml	
manifest_AuditDoc.xml	
使い分けについて	
PublicDoc	縦覧用提出書類のタクソミ及び報告書インスタンスを表すマニフェストファイルの場合
PrivateDoc	非縦覧用提出書類のタクソミ及び報告書インスタンスを表すマニフェストファイルの場合
AuditDoc	監査報告書のタクソミ及び報告書インスタンスを表すマニフェストファイルの場合

図表 6-2-2 マニフェストファイル名の設定例

【例】
《条件》 提出書類本文を表すマニフェストファイルの場合
《ファイル名の例》 manifest_PublicDoc.xml

### 6-2-2 使用する文字コード

マニフェストファイルで使用する文字コード（エンコーディング形式）は、「UTF-8」です。BOM(Byte Order Mark)は、マニフェストファイルに設定しません。

### 6-2-3 使用する要素と構成

マニフェストファイルで使用する要素と構成例を説明します。

### 6-2-3-1 縦覧用提出書類本文のマニフェストファイルの構成例

縦覧用提出書類のマニフェストファイルは「図表 6-2-3 マニフェストファイルのイメージ(縦覧用提出書類本文)」のような構成になります。図表内の(A)、(B)、(C)及び(D)の詳細については、「6-2-3-3 マニフェストファイルに記載する内容」を参照してください。

図表 6-2-3 マニフェストファイルのイメージ(縦覧用提出書類本文)

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<manifest xmlns="http://xbrl.org/2010/manifest" xmlns:jpsps_cor="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/taxonomy/jpsps/2012-06-30/jpsps_cor">
  <tocComposition>
    <title xml:lang="ja">提出本文書</title>
    <title xml:lang="en">Main Document</title>
    <item ref="jpsps040000" extrole="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/role/jpsps/rol_CabinetOfficeOrdinanceOnDisclosureOfInformationEtcOnSpecifiedSecuritiesFormNo4SecuritiesRegistrationStatement" in="presentation">
      <insert parent="jpsps_cor:FundInformationHeading ">
        <item ref="jpsps040000_1" extrole="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/role/jpsps/rol_CabinetOfficeOrdinanceOnDisclosureOfInformationEtcOnSpecifiedSecuritiesFormNo4SecuritiesRegistrationStatement" start="jpsps_cor:FinancialInformationOfFundHeading" in="presentation" />
      </insert>
      <insert parent="jpsps_cor:FundInformationHeading ">
        <item ref="jpsps040000_2" extrole="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/role/jpsps/rol_CabinetOfficeOrdinanceOnDisclosureOfInformationEtcOnSpecifiedSecuritiesFormNo4SecuritiesRegistrationStatement" start="jpsps_cor:FinancialInformationOfFundHeading" in="presentation" />
      </insert>
    </item>
  </tocComposition>
  <list>
    <instance id="jpsps040000" type="PublicDoc" preferredFilename="jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29.xbrl">
      <ixbrl>0000000_header_jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
      <ixbrl>0101010_header_jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
      <ixbrl>0201010_header_jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
      <ixbrl>0203010_header_jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
      <ixbrl>0203040_header_jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
      <ixbrl>0203070_header_jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
      <ixbrl>0301010_header_jpsps040000-srs-001_Y99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
    </instance>
    <instance id="jpsps040000_1" type="PublicDoc" preferredFilename="jpsps040000-srs-001_Y99009-001_2012-03-31_01_2012-06-29.xbrl">
      <ixbrl>0203020_honbun_jpsps040000-srs-001_Y99009-001_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
      <ixbrl>0203030_honbun_jpsps040000-srs-001_Y99009-001_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
    </instance>
    ...
  </list>
</manifest>

```

マニフェストファイルの始まり

(A) 様式ツリー

(B) 目次の差し込み位置

XBRLインスタンスファイル名

(D) インラインXBRLファイル

インラインXBRLファイル名

(C) 報告書インスタンス

マニフェストファイルの終わり

※ インライン XBRL ファイルを分割して作成した場合、分割した全てのファイルを設定します。



**注意**

EDINET では、マニフェストファイルで設定したインライン XBRL ファイルを基に、XBRL インスタンスファイルが自動作成されます。設定したインライン XBRL ファイル名の誤りや、ファイルの不足等があると、正しく XBRL インスタンスファイルが作成されませんので、注意してください。

自動作成される XBRL インスタンスファイルのファイル名は、マニフェストファイルで設定した名前になります。

**6-2-3-2 監査報告書のマニフェストファイルの構成例**

監査報告書のマニフェストファイルは、「図表 6-2-4 マニフェストファイルのイメージ(監査報告書)」のような構成になります。図表内の(A)、(B)、(C)及び(D)の詳細については、「6-2-3-3 マニフェストファイルに記載する内容」を参照してください。

図表 6-2-4 マニフェストファイルのイメージ(監査報告書)

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<manifest xmlns="http://xbrl.org/2010/manifest">
  <tocComposition>
    <title xml:lang="ja">提出本文書</title>
    <title xml:lang="en">Main Document</title>
    <item ref="jpaud" extrole="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/role/jpcrp/rol_ReportOfIndependentAuditors" in="presentation">
      <insert parent="jpsps_cor:ReportOfIndependentAuditorsHeading">
        <item ref="jpaud_1" extrole="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/role/jpcrp/rol_ReportOfIndependentAuditors" start="jpsps_cor:ReportOfIndependentAuditorsHeading" in="presentation" />
      </insert>
      <insert parent="jpsps_cor:ReportOfIndependentAuditorsHeading">
        <item ref="jpaud_2" extrole="http://info.edinet-dev.fsa.go.jp/role/jpcrp/rol_ReportOfIndependentAuditors" start="jpsps_cor:ReportOfIndependentAuditorsHeading" in="presentation" />
      </insert>
    </item>
  </tocComposition>
  <list>
    <instance id="jpaud" type="AuditDoc" preferredFilename="jpaud-aar-cn-001_Y99009-001_2012-03-31_01_2012-06-29.xbrl">
      <ixbrl>jpaud-aar-cn-001_Y99009-001_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
    </instance>
    <instance id="jpaud_1" type="AuditDoc" preferredFilename="jpaud-aar-cn-001_Y99009-002_2012-03-31_01_2012-06-29.xbrl">
      <ixbrl>jpaud-aar-cn-001_Y99009-002_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
    </instance>
    <instance id="jpaud_2" type="AuditDoc" preferredFilename="jpaud-aar-cc-001_X99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29.xbrl">
      <ixbrl>jpaud-aar-cc-001_X99009-000_2012-03-31_01_2012-06-29_ixbrl.htm</ixbrl>
    </instance>
  </list>
</manifest>

```

マニフェストファイルの始まり

(A) 様式ツリー

(B) 目次の差し込み位置(※1)

XBRLインスタンスファイル名

(D) インライン XBRL ファイル

インラインXBRLファイル名

(C) 報告書インスタンス(※2)

マニフェストファイルの終わり


※1: 監査報告書は1通ごとに報告書インスタンスを作成するため、複数の監査報告書がある場合は、目次の差し込み位置を設定します。

※2: 複数の監査報告書がある場合、その報告書インスタンスの数だけ設定します。

### 6-2-3-3 マニフェストファイルに記載する内容

マニフェストファイルに記載する内容について説明します。

図表 6-2-5 マニフェストファイルに記載する内容

No	項目	設定値	説明
1	(A)様式ツリー	報告書インスタンスの ID	本図表の No.9 に記載する「報告書インスタンスの ID」を指定します。
2		roleURI	様式ツリーの roleURI を指定します。
3		目次要素が設定されている関係リンクの種別	目次要素が設定されている関係リンクの種別を指定します。EDINET タクソノミでは、様式ツリーを定義している表示リンク (presentation) を指定します。
4	(B)目次の差し込み位置 <sup>※1</sup>	親目次要素 (QName 形式)	様式ツリーへの差し込み位置を表す親目次要素を指定します。なお、目次要素は QName 形式 (名前空間プレフィックス:要素名) で指定します。
5		報告書インスタンスの ID	本図表の No.9 に記載する「報告書インスタンスの ID」を指定します。
6		roleURI	差し込む対象である拡張リンクロールの roleURI を指定します。
7		目次要素が設定されている関係リンクの種別	目次要素が設定されている関係リンクの種別を指定します。EDINET タクソノミでは、様式ツリーを定義している表示リンク (presentation) を指定します。
8		目次要素 (QName 形式)	差し込む目次要素を指定します。なお、目次要素は QName 形式 (名前空間プレフィックス:要素名) で指定します。
9	(C)報告書インスタンス <sup>※2</sup>	報告書インスタンスの ID	生成する報告書インスタンスの ID (「jp[府令略号][様式番号]_{連番 1桁}」) を指定します。 <sup>※3</sup>
10		文書種別	報告書インスタンスの保存フォルダ名 (「PublicDoc」、「PrivateDoc」又は「AuditDoc」のいずれか) を指定します。
11		生成する XBRL インスタンスファイル名	インライン XBRL から生成する XBRL インスタンスファイル名を指定します。  参照 「4 章 報告書インスタンスのファイル仕様 4-2-4 XBRL インスタンスファイル」
12	(D)インライン XBRL ファイル	インライン XBRL ファイル名	生成する XBRL インスタンスファイルの基となるインライン XBRL ファイル名を指定します。

※1: 目次の差し込み位置の指定は、シリーズファンド等で提出書類が複数の報告書インスタンスで構成される場合に限りです。

※2: 提出書類に含まれる報告書インスタンスの数だけ設定します (シリーズファンド等で複数の報告書インスタンスとなる場合は、その数だけ設定します。)

※3: 「報告書インスタンスの ID」の「連番」には、1 から始まる連番を付与します。連番は、シリーズファンド等で複数の報告書インスタンスとなる場合にのみ付与します。

### 6-2-3-4 マニフェストファイルで使用する要素

マニフェストファイルで使用する要素について説明します。

図表 6-2-6 マニフェストファイルで使用する要素の一覧

要素名	説明	属性	
		属性名	属性値(括弧内は説明)
manifest	マニフェストのルート要素	xmlns	URI(名前空間 URI) ※シリーズファンド等の目次の差し込みを行う場合は、利用する目次要素が定義された語彙スキーマの名前空間 URI を指定します。
tocComposition	一つの文書の目次定義	なし	なし
title	文書タイトル ※「提出本文書」「監査報告書」等	xml:lang	ja(タイトルの文字属性が日本語の場合) en(タイトルの文字属性が英語の場合)
item	目次項目	ref	値(様式ツリーの格納先)
		extrole	目次が定義されている拡張リンクロール
		in	値(目次項目を別ファイルから参照する場合に、当該目次項目の記載があるリンクベースファイルの種別) ※ref 属性と一緒に利用します。
		start	様式ツリーの途中から開始する場合、要素名を指定します。 ※主に目次差し込み時に使用します。
		end	様式ツリーの途中で終わる場合、要素名を指定します。 ※主に目次差し込み時に使用します。
insert	目次項目の差し込み(複数の報告書インスタンスの目次項目を差し込む場合) ※子要素として「item」要素を定義し差し込む目次項目の値を定義します。	parent	名(差し込みする内容の親要素名)
list	提出データに格納されている報告書インスタンスファイルのリスト	なし	なし
instance	報告書インスタンスのリスト	id	値(報告書インスタンスの ID) ※item 要素及び ixbrl 要素から ref 属性で参照されます。
		type	フォルダ名(報告書インスタンスの保存フォルダ名) ※PublicDoc、AuditDoc 等を指定します。
		preferred Filename	ファイル名(XBRL インスタンスファイルのファイル名)

要素名	説明	属性	
		属性名	属性値(括弧内は説明)
ixbrl	報告書インスタンスを構成するインラインXBRLファイル名の定義	なし	なし

# 7

## 報告書インスタンスを 作成する際の注意事 項

本章では、その他の報告書インスタンス作成時に注意することについて説明します。

## 7-1 表示とラベルの整合性

ブラウザ上に表示される科目又は表題とタクソノミのラベルとの整合性は、タグ付け対象の種類によって要件が異なります。ラベルの上書き及び表示とラベルとの一致については、「図表 7-1-1 ラベルの上書き及び表示とラベルとの一致について」を参照してください。また、個々の詳細タグ付け対象に関する詳細は、「7-8 詳細化範囲のタグ付け指針」も参照してください。

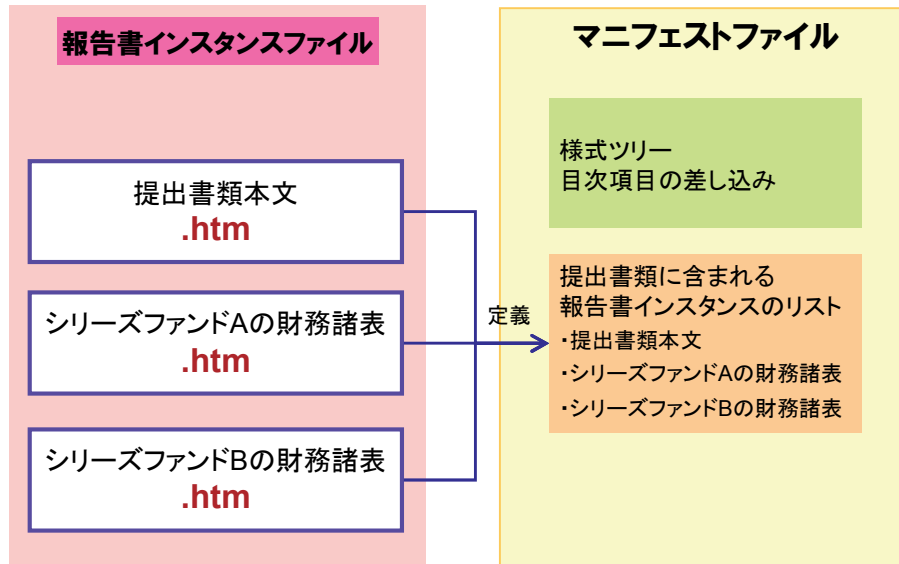
図表 7-1-1 ラベルの上書き及び表示とラベルとの一致について

No	ケース	ルール(上段)と例外(下段)
1	財務諸表本表中の金額のタグ付け	<p>上書きは不可とします。表示科目とラベルとは、限定的な例外を除き一致するようにします。</p> <p><b>例外</b></p> <p>次の場合においては、表示科目とラベルとの不一致を認めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株主資本等変動計算書等における遡及処理の表記をする場合の「純資産」要素の表示科目とラベルとの不一致。</li> </ul>
2	No1 以外の金額及び数値の詳細タグ付け	<p>上書きは不可とします。原則として、表示科目とラベルとは、一致させるようにします。表示科目と要素概念の一致を前提に、次のような例外においては不一致を認めます。</p> <p><b>例外</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営指標等における「当期」、「中間」又は「四半期」の期間区別の不一致。</li> <li>経営指標等における「正值」のみ又は「負値」のみを表す表示科目と「正值又は負値(△)」の標準ラベルとの不一致。</li> <li>セグメント情報におけるセグメント利益、セグメント資産等の表示科目とラベルとの不一致。</li> </ul>
3	ディメンションのメンバー要素	<p>上書きは不可とします。「合計」、「小計」等、表示名称が用途別の変化をする場合は、必ずしも一致させる必要はありません。</p>
4	その他のタグ付け	<p>記載内容と要素概念の一致を前提に、表題とラベルとは必ずしも一致させる必要はありません。ラベルを上書きし、一致させることも可能です。</p>

## 7-2 シリーズファンドのインスタンス

シリーズファンド等において複数の財務諸表本表を記載する場合は、マニフェストファイルを使用し、複数の報告書インスタンスを定義する必要があります。また、様式ツリーの目次項目の差し込みも併せて定義します。


図表 7-2-1 複数の財務諸表本表で報告書作成する場合のイメージ



## 7-3 訂正報告時の提出ファイル

EDINET に提出済みのインライン XBRL の記載内容又は XBRL データに訂正がある場合（ケース 1 からケース 4 までを参照。）は、訂正報告書とともに、訂正後の XBRL 形式書類を構成するファイル一式（提出者別タクソノミ、報告書インスタンス及びマニフェストファイル）を再提出します。IFRS 財務諸表の XBRL を併せて提出している場合は、訂正箇所が IFRS 財務諸表の内か否かにかかわらず、IFRS 財務諸表を含むインライン XBRL のファイル一式を再提出します。

- (ケース 1) XBRL 形式で提出する財務諸表に関する訂正がある場合
- (ケース 2) 財務諸表自体の訂正はないが、財務諸表以外の部分で XBRL データの修正がある場合
- (ケース 3) 報告書インスタンスのみを修正した場合  
(提出者別タクソノミの変更はなし)
- (ケース 4) 提出者別タクソノミのみ（例えばラベルのみ）を修正した場合  
(報告書インスタンスの変更はなし)

訂正報告書自体は XBRL の対象外です。添付するインライン XBRL の表紙ファイルには、提出書類名に続けて「(元号 GG 年 M 月 D 日付け訂正報告書の添付インライン XBRL)」又は「(元号 GG 年 M 月 D 日付け XBRL 修正の添付インライン XBRL)」と記載してください。  「図表 7-3-1 表紙のイメージ」

図表 7-3-1 表紙のイメージ

<b>【表紙】</b>	
【提出書類】	有価証券報告書（平成24年7月20日付け訂正報告書の添付インラインXBRL）
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長

さらに、DEI の内容について「提出回数」及び「修正の有無」を修正し、「修正対象書類の書類管理番号」を設定します。提出日の日付は、当初提出日のまま変更しません。

ファイルを再提出する際の注意点は、次のとおりです。

- (注意点 1) ファイル命名規約に従い、ファイル一式の各ファイル名の{提出回数}をインクリメント（1 ずつ増加）します。
- (注意点 2) ファイル一式の各ファイル名の{提出回数}が一致していることを確認します。
- (注意点 3) 訂正報告書の場合は、当該訂正報告書を提出した日がファイル名の提出日になっていることを確認します。
- (注意点 4) 修正対象書類の書類管理番号が入力されていることを確認します。

ファイルの命名規約は、「4章 報告書インスタンスのファイル仕様 4-2 報告書インスタンスのファイル名」及び「提出者別タクソノミ作成ガイドライン」を参照してください。

XBRL の修正内容に応じて変更が必要になる場合を除き、提出者別タクソノミの作成において初回提出の場合又は修正再提出の場合で、作成方法が変わることはありません。



## 7-4 インライン XBRL の記載に関する注意事項

インライン XBRL で作成する提出書類のレイアウトについては、法令及び開示慣行に従ってください。その際、次のことに注意してください。

### ➡ タクソノミのラベルとインライン XBRL の勘定科目名(注 1)

インライン XBRL では、勘定科目名を XHTML に記載します。その際、タクソノミのラベルと、インライン XBRL で記載される科目又は表題の整合性については、タグ付け対象の種類によって要件が異なります。「7-1 表示とラベルの整合性」を参照してください。

### ➡ 前期又は当期の表示(注 2)

金額を記載する際には、前期又は当期のコンテキストの設定を間違えないように注意してください。

### ➡ 合計線の表示(注 3)

合計線の表示及び背景色の設定は、インライン XBRL に対して作成者が設定する必要があります。

なお、合計線の表示及び背景色の設定についてインライン XBRL 上のルールはありません。財務諸表等規則、業法等を参考にしてください。

図表 7-4-1 記載に関する注意事項

#### 1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

#### 注2

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	78,030	95,111
受取手形及び売掛金	77,058	※7 76,965
有価証券	41,625	39,640
たな卸資産	※1 16,792	※1 13,434
繰延税金資産	8,270	6,934
その他	14,717	14,450
貸倒引当金	△889	△706
流動資産合計	235,653	245,799
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	※2、※4 94,877	※2、※4 107,441
機械装置及び運搬具(純額)	※2、※4 17,579	※2、※4 11,867
土地	※4 29,844	※4 28,742
建設仮勘定	5,752	4,322
その他(純額)	※2 184	※2 234
有形固定資産合計	148,236	152,606
無形固定資産		
ソフトウェア	30,482	27,567
その他	14,811	17,209
無形固定資産合計	41,793	44,767
投資その他の資産		
投資有価証券	※3 45,252	※3 48,397
その他	29,638	20,090
貸倒引当金	△3,733	△2,626
投資その他の資産合計	71,155	65,867
固定資産合計	261,184	263,240
資産合計	496,837	509,039

注1

注3

## 7-5 株主資本等変動計算書等

『提出者別タクソミ作成ガイドライン』のとおり、株主資本等変動計算書等の項目のうち「当期末残高」と「当期首残高」における純資産合計は、貸借対照表で定義した純資産の部の要素と同一です。

したがって、貸借対照表の純資産並びに株主資本等変動計算書等の「当期末残高」及び「当期首残高」におけるそれぞれの純資産合計の値は、同一の値を同一要素、同一コンテキスト及び同一ユニットでそれぞれタグ付けする必要があります。

図表 7-5-1 株主資本等変動計算書等の純資産合計

前年度	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△28,608	△28,608	3,339	227,341
会計方針の変更による累積的影響額				△7,584
遡及処理後当期首残高				219,757
当期変動額				
剰余金の配当				△3,098
当期純利益				7,558
自己株式の取得				△342
自己株式の処分				32
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,557	1,557	△239	1,318
当期変動額合計	1,557	1,557	△239	5,468
当期末残高	△27,051	△27,051	3,100	225,225

当年度	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△27,051	△27,051	3,100	225,225
会計方針の変更による累積的影響額				—
遡及処理後当期首残高				225,225
当期変動額				
剰余金の配当				△3,222
当期純利益				8,056
自己株式の取得				△6
自己株式の処分				489
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△1,562	△1,562	583	△979
当期変動額合計	△1,562	△1,562	583	4,338
当期末残高	△28,613	△28,613	3,683	229,563

当期末残高と当期首残高の純資産合計の値は完全一致

## 7-6 検証に関する注意事項

報告書インスタンスに対して計算リンクの検証を実施すると、計算リンクのサブツリーごとに、コンテキストとユニットの組合せで設定された値の加減算関係のチェックが行われます。

計算リンクには、財務諸表の各本表及び連結財務諸表の各本表のそれぞれに拡張リンクロールが存在するため、一つの要素に対して、拡張リンクロールで区別される複数の計算リンクが存在する可能性があります。

拡張リンクロールとコンテキストの組合せが意図したものと一致している場合、正しく検証されます。意図したものと一致していない組合せの場合、正しく検証されません。

例えば、次の「図表 7-6-1 拡張リンクロールとコンテキストの組合せについて」では、連結用の拡張リンクロールと連結用コンテキストとの組合せ及び個別用の拡張リンクロールと個別用コンテキストとの組合せは、意図した組合せであるため正しく検証されます。個別用の拡張リンクロールと連結用コンテキストの組合せ又は連結用の拡張リンクロールと個別用の拡張リンクロールの組合せでは、正しい検証結果になりません。

図表 7-6-1 拡張リンクロールとコンテキストの組合せについて

科目	連結用 拡張リンク ロール		個別用 拡張リンク ロール	
	連結用 コンテキスト	個別用 コンテキスト	連結用 コンテキスト	個別用 コンテキスト
現金及び預金	← 567 →	← 123 →	← (該当なし) →	← (該当なし) →
受取手形及び売掛金	← 1,234 →	← (該当なし) →	← (該当なし) →	← (該当なし) →
有価証券	← 789 →	← 456 →	← 456 →	← (該当なし) →
たな卸資産	← 3,456 →	← 789 →	← 789 →	← (該当なし) →
...	← 12 →	← (該当なし) →	← (該当なし) →	← (該当なし) →
...				
受取手形	(該当なし)	12 →	12 →	12 →
売掛金	(該当なし)	34 →	34 →	34 →
...	(該当なし)	56 →	56 →	56 →
...				
流動資産合計	6,058	×	×	1,470

○ 検証対象
✕ 検証対象外
○ 検証対象

※EDINETの様式ツリー及び詳細ツリーの構造設計上、連結用の詳細ツリーと個別用の詳細ツリーはそれぞれ別個に定義されています。

## 7-7 外国会社の円貨併記の取扱い

外国会社が提出する財務書類に記載される科目その他の事項について、外貨建ての金額により表示している場合には、企業内容等の開示に関する内閣府令、財務諸表等規則等に基づき、主要な事項について円貨に換算した金額を併記します。この場合、要素名とコンテキスト ID は円貨と同じ設定にし、ユニット ID に適切な外貨ユニットを設定する必要があります。

### → 単位の設定

使用する外貨について ISO4217 で規定しているコードを設定します（例：中国元の場合、ユニット ID は「CNY」、measure は「iso4217:CNY」を設定します。）。

ユニット ID の詳細は、「5章 報告書インスタンスの作成 5-5-1 ユニットの設定」を参照してください。

## 7-8 詳細化範囲のタグ付け指針

詳細化範囲のタグ付け指針について説明します。

### 7-8-1 表紙

表紙に関するコンテキストは、全て「提出日」を利用してタグ付けします。

表紙の【会社名】に旧会社名を付記する場合、次の「図表 7-8-1 表紙の会社名に旧会社名を付記する例」にあるように、会社名の要素で旧会社名も含めてタグ付けします。【英訳名】の旧社名についても【会社名】と同様のタグ付けをします。なお、社名変更の注釈を英訳名の下に記載する場合は、注釈を日本語で記載する場合も英訳名の要素でタグ付けします。

図表 7-8-1 表紙の会社名に旧会社名を付記する例

【事業年度】	第108期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）
【会社名】	A株式会社 （旧会社名 A工業株式会社）
【英訳名】	A Corporation （旧英訳名 A Industries Corporation） ※ ○○○○○○

社名変更の注釈は、英訳名の要素でタグ付け

## 7-8-2 主要な経営指標等の推移

指標として記載される金額及び数値を個々にタグ付けします。

ただし、会計期間と勘定科目の实在しない組合せ項目について「-」を表示する場合は、タグ付けしません。例えば「連結中間包括利益」は、中間連結会計期間の包括利益を表す勘定科目です。したがって、「平成22年度」及び「平成23年度」の項目は中間連結会計期間ではないため实在しない組合せになります。このような場合には、タグ付けをしません。

 参照 「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-3-4 該当なしタグ」


表の注釈は、様式ツリーの包括タグのみとし、詳細タグ付けはしません。

図表 7-8-2 主要な経営指標等の推移

		平成22年度 中間連結会計期間	平成23年度 中間連結会計期間	平成24年度 中間連結会計期間	平成22年度	平成23年度
		(自 平成22年 4月1日 至 平成23年 9月30日)	(自 平成23年 4月1日 至 平成23年 9月30日)	(自 平成24年 4月1日 至 平成24年 9月30日)	(自 平成22年 4月1日 至 平成23年 3月31日)	(自 平成23年 4月1日 至 平成24年 3月31日)
連結経常収益	百万円	310,790	323,109	330,525	652,659	678,528
連結経常利益	百万円	8,761	10,646	15,263	18,398	22,356
連結中間純利益	百万円	6,095	7,559	9,056	12,061	15,871
連結当期純利益	百万円	-	-	-	-	-
連結中間包括利益	百万円	7,962	9,409	6,780	-	-
連結包括利益	百万円	-	-	-	14,826	16,237
連結純資産額	百万円	218,264	222,081	229,563	220,530	225,225
連結総資産額	百万円	421,603	472,765	509,039	453,538	496,837

(注) 1. 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
2. ……………。

表の注釈は様式ツリーの包括タグでタグ付け

 包括タグ  詳細タグ

### 7-8-3 大株主の状況

大株主の状況及び（該当ある場合は）所有株式に係る議決権上位者を詳細タグ付けします。表の注釈は、様式ツリーの包括タグのみとし、詳細タグ付けはしません。

図表 7-8-3 大株主の状況

(7) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	株式数	議決権の割合 (%)
大株主の状況は詳細タグ付け ※該当がある場合、所有株式に係る議決権上位者も詳細タグ付け			
〇〇商事株式会社	東京都〇〇区〇〇〇1-2-1	32,715	10.14
〇〇信託銀行株式会社	東京都〇〇区〇〇〇1-4-5	15,969	4.95
株式会社〇〇銀行	大阪市〇区〇〇5-15	15,867	4.92
〇〇〇生命保険相互会社	東京都〇〇区〇〇〇2-19-18	11,523	3.57
〇〇生命保険相互会社	大阪市〇区〇〇4-7	10,773	3.34
株式会社〇〇製作所	大阪市〇区〇〇5-22	10,530	3.27
〇〇電機株式会社	東京都〇〇区〇〇〇1-5-5	9,582	2.97
〇〇電子工業株式会社	東京都〇〇区〇〇〇1-2-1	9,228	2.86
〇〇〇〇工業株式会社	東京都〇〇区〇〇〇2-1-1	8,070	2.50
〇〇〇産業株式会社	大阪市〇〇区〇〇3-4-5	7,890	2.45
株式会社〇〇銀行	東京都〇〇区〇〇1-2-3	7,890	2.45
表の注釈は目次項目に対応付けた包括タグでタグ付け		140,043	43.42

(注) 1. 上記〇〇信託銀行株式会社の所有株式数のうち、……………。

2. ……………。

包括タグ 詳細タグ

### 7-8-4 事業等のリスク

「重要事象等」の記載がある場合、その記載を再度テキストブロックでタグ付けします。

### 7-8-5 経理の状況

冒頭の記載を EDINET タクソノミの文字列要素の粒度でタグ付けします。  
なお、四半期会計期間に係る記載と四半期累計期間に係る記載とを区分してタグ付けすることが困難な場合は、四半期累計期間のコンテキストを利用します。

## 7-8-6 財務諸表

### → 日本基準

財務諸表本表は、詳細タグ付けします。連結個別、純資産科目及び遡及処理はディメンションを用います。注記事項については、「7-8-7 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」から「7-8-12 セグメント情報等」を参照してください。

### → IFRS

詳細タグ付けは、任意とします。

詳細タグ付けを行わない場合は、開示府令タクソミの目次レベルの包括タグ付けをします。注記事項が複数ファイルになる場合は、二つ目以降のファイルは、連番での拡張要素を作成します。

詳細タグ付けを行う場合は、別インスタンスとし、IFRS タクソミを用いてタグ付けします。詳細範囲については、次の三つから任意に選択します。

- (1) 財務諸表本表のみ詳細タグ付け
- (2) 財務諸表本表及びセグメント情報を詳細タグ付け
- (3) 財務諸表全体を詳細タグ付け

なお、詳細タグ付けしない範囲については、テキストブロック要素を用いて包括タグ付けをする必要があります。

### → 米国基準

詳細タグ付けは、行いません。「開示府令タクソミ」の目次レベルの包括タグ付けをします。

注記事項が複数ファイルになる場合、二つ目以降のファイルは、連番での拡張要素を作成します。

## 7-8-7 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

EDINET タクソミのテキストブロックの粒度でタグ付けします。

## 7-8-8 重要な会計方針

EDINET タクソミのテキストブロックの粒度でタグ付けします。



## 7-8-9 貸借対照表関係

注記事項の項番ごとにテキストブロックでタグ付けし、更に次の事項については、個々の金額にタグ付けします。

- ➔ たな卸資産の注記
- ➔ 引当金の注記
- ➔ 減価償却累計額の注記
- ➔ 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

※上記以外の事項については、個々の金額にタグ付けしません。

注記事項の項番ごとのテキストブロックについては、原則として当会計期間及び比較対象会計期間の両方の記載を当会計期間のコンテキスト ID でタグ付けします。可能な場合には、当会計期間と比較対象会計期間のそれぞれの記載をそれぞれのコンテキスト ID でタグ付けすることも可能です。詳細は「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-3-2 テキストブロック」の「図表 5-6-18 当会計期間及び比較対象会計期間の記載がそれぞれタグ付けできる場合の例」を参照してください。

図表 7-8-4 個々の金額にタグ付けする例

【注記事項】  
(連結貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	たな卸資産の注記は 個々の金額にタグ付け	連結会計年度 (平成24年3月31日)
商品及び製品	9,642		7,531
仕掛品	3,857		2,909
原材料及び貯蔵品	3,293		2,994
計	16,792		13,434

[ ] 包括タグ   
 [ ] 詳細タグ

図表 7-8-5 個々の金額にタグ付けしない例

※4 担保資産及び担保付債務  
担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	個々の金額には タグ付けしない	連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	8,888		8,888
機械装置及び運搬具	8,888		8,888
土地	8,888		8,888
計	8,888		8,888

[ ] 包括タグ

## 7-8-10 損益計算書関係

注記事項の項番ごとにテキストブロックでタグ付けし、更に次の事項については、個々の金額にタグ付けします。

- ➔ たな卸資産の帳簿価額の切下げに関する注記
  - ➔ 主要な販売費及び一般管理費
  - ➔ 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費
- ※上記以外の事項については、個々の金額にタグ付けしません。

注記事項の項番ごとのテキストブロックについては、原則として当会計期間及び比較対象会計期間の両方の記載を当会計期間のコンテキスト ID でタグ付けします。可能な場合には、当会計期間と比較対象会計期間のそれぞれの記載をそれぞれのコンテキスト ID でタグ付けすることも可能です。詳細は、「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-3-2 テキストブロック」の「図表 5-6-18 当会計期間及び比較対象会計期間の記載がそれぞれタグ付けできる場合の例」を参照してください。

図表 7-8-6 個々の金額にタグ付けする例

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 至 平成23年)	主要な販売費及び一般管理 費は個々の金額にタグ付け	度 平成23年 4月1日 至 平成24年 3月31日)
給料及び手当	39,532	39,532	40,208
減価償却費	18,354	18,354	17,899
代理店手数料	9,283	9,283	10,561

     包括タグ    
      詳細タグ

図表 7-8-7 個々の金額にタグ付けしない例

※4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月 至 平成23年3月)	個々の金額には タグ付けしない	結会計年度 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	8,888	8,888	8,888
工具器具備品	8,888	8,888	8,888
計	8,888	8,888	8,888

     包括タグ

## 7-8-11 包括利益計算書関係、株主資本等変動計算書関係及びキャッシュ・フロー計算書関係

注記事項の項番ごとにテキストブロックでタグ付けをします。

図表 7-8-8 財務諸表等の条文単位でタグ付けする例

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

※1	その他の包括利益に係る組替調整額			
	その他有価証券評価差額金：			
	当期発生額	8,888百万円		
	組替調整額	8,888	8,888百万円	
	繰延ヘッジ損益：			
	当期発生額	8,888		
	組替調整額	8,888	8,888	
	為替換算調整勘定：			
	当期発生額	8,888	8,888	
	税効果調整前合計		8,888	
	税効果額		8,888	
	その他の包括利益合計		8,888	
※2	その他の包括利益に係る税効果額			
		税効果調整前	税効果額	税効果調整後
	その他有価証券評価差額金	8,888百万円	8,888百万円	8,888百万円
	繰延ヘッジ損益	8,888	8,888	8,888
	土地再評価差額金	8,888	8,888	8,888
	為替換算調整勘定	8,888	8,888	8,888
	その他の包括利益合計	8,888	8,888	8,888

包括タグ

## 7-8-12 セグメント情報等

詳細タグ付けを行います。

ただし、関連情報、差異調整に関する事項及び調整額に係る脚注については、それぞれテキストブロックでタグ付けし、表中又は文中の個々の金額は詳細タグ付けしません。

「報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」の表示項目は、財務諸表本表中の調整対象の勘定科目と同一の要素を用います。例えば、セグメント利益は、「営業利益又は営業損失(△)」、「経常利益又は経常損失(△)」、「税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)」又は「当期純利益又は当期純損失(△)」を用います。また、セグメント資産は、「資産」を、セグメント負債は「負債」をそれぞれ用います。

財務諸表本表中の調整対象の勘定科目と同一の要素を用いた場合に、表示科目とラベルとが不一致となることを認めます。

図表 7-8-9 セグメント情報等でタグ付けする例

(セグメント情報等)  
【セグメント情報】

- 報告セグメントの概要  
当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、
- 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法  
報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、
- 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				計	その他 (注)	合計
	セグメント情報は詳細タグ付け						
売上高							
外部顧客への売上高	109,851	152,607	40,358	302,816	14,118	316,934	
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,161			2,161		2,161	
計	112,012	152,607	40,358	304,977	14,118	319,095	
セグメント利益	5,684	11,243	878	17,805	967	18,772	
セグメント資産	129,708	106,522	71,915	308,145	14,412	322,557	
セグメント負債	70,500	97,842	20,500	188,842	—	188,842	
その他の項目							
減価償却費	7,492	5,798	3,348	16,638	500	17,138	
持分法適用会社への投資額	2,400	2,141	—	4,541	—	4,541	
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	11,752	7,497	4,434	23,683	—	23,683	

(注) その他には、当社が行っている子機器レンタル事業等を含んでおります。

- 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）  
(単位：百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	8,888	8,888
「その他」の区分の売上高	8,888	8,888
セグメント間取引消去	8,888	8,888
連結財務諸表の売上高	8,888	8,888

【関連情報】  
前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

- 製品及びサービスごとの情報  
(単位：百万円)

	通信機器	計測機器	産業機械	その他	合計
外部顧客への売上高	8,888	8,888	8,888	8,888	8,888

   包括タグ   
    詳細タグ

## 7-8-13 大量保有報告府令

EDINET タクソノミの要素の粒度で詳細タグ付けします。

ただし、次の目次は包括タグでタグ付けします。

【当該株券等の発行者の発行する株券等に関する最近 60 日間の取得又は処分  
の状況】

【借入金の内訳】

【借入先の名称等】

## 7-8-14 公開買付府令(自社株又は他社株)

目次のうち【買付け等を行った後における株券等所有割合】は、詳細タグでタグ付けします。これ以外の目次は、包括タグでタグ付けします。

## 7-8-15 特定有価証券開示府令

【ファンドの経理状況】及び【投資法人の経理状況】の財務諸表本表は、詳細タグ付けします。連結個別、純資産科目及び遡及処理はディメンションを用います。ファンドの委託会社の財務諸表については「7-8-16 ファンドの委託会社の中間財務諸表本表」を参照してください。

## 7-8-16 ファンドの委託会社の中間財務諸表本表

【ファンドの委託会社の経理状況】に、通期の財務諸表に加え中間財務諸表を記載する場合は、中間財務諸表本表、重要な会計方針及び注記事項の全てを「注記事項、委託会社等の経理状況[テキストブロック]」に含めてタグ付けします。

## 7-8-17 有価証券届出書における次の事業年度の四半期又は中間財務諸表の開示

有価証券届出書に記載する次の事業年度における四半期財務諸表は CurrentQuarter 又は CurrentYTD で始まるコンテキスト ID を、次の中間財務諸表は Interim で始まるコンテキスト ID をそれぞれ使用します。

この場合、最近事業年度を表すコンテキスト ID は Prior1Year から、前事業年度を表すコンテキスト ID は Prior2Year から始まるようにそれぞれ定義します。

図表 7-8-10 使用するコンテキスト ID

	第1四半期	第3四半期	中間期
時点	CurrentQuarter	CurrentQuarter	Interim
期間	CurrentYTD	CurrentYTD*	Interim

※CurrentYTD は、累計期間を表します。第3四半期で会計期間の情報を記載する場合は、CurrentQuarter を使用します。


## 7-8-18 目次のみ記載される場合

目次のみ記載され、内容が記載されていない場合は、タグ付けの必要はありません。

例えば、公開買付届出書において、公開買付者が継続開示会社であるために【公開買付者の状況】中で目次のみ記載している箇所は、タグ付け不要です。

## 7-8-19 様式により表が記載されるが、該当なしの場合

様式により表が記載されるが、報告すべき内容がない場合は、表のヘッダ行を除く1行目の左端を、該当なしタグでタグ付けします。

 参照 「5章 報告書インスタンスの作成 5-6-3-4 該当なしタグ」


図表 7-8-11 該当なしタグのイメージ

### 3 【株主総会又は取締役会の決議等の内容等】

#### (1) 【発行済株式の総数】

88,888,888 株（平成 24 年 9 月 27 日現在）

#### (2) 【株主総会における決議内容】

種類	総数（株）	取得額の総額（円）
	—	—

 詳細タグ







# 報告書インスタンス作成ガイドライン (次世代 EDINET 案)

平成 24 年 6 月 25 日

---